



ほかにはない  
アンサーを。

# オリックス株式会社

## 2021年3月期第1四半期 決算説明資料

執行役 経本部長

矢野 人磨呂

2020年8月4日

## (1) 業績統括

**当期純利益 500億円**（前年同期比▲27.7%）、**ROE（年換算） 6.8%**

20.3期決算時に公表した特にコロナ禍により影響を受ける事業を除き、ベース利益は堅調  
上期配当予想 35円、通期配当性向 50% に変更なし

## (2) セグメント業績

**6セグメントから10セグメントへ、さらなる成長に向け海外の開示を拡充**

複数のコア事業が、強固な経営基盤を下支え。海外事業比率の高まりを受け、理解を深めていただけるよう開示を拡充

## (3) 財務健全性

**A格以上を維持、高い手元流動性を確保**

7月に据置を公表したS&Pをはじめ、Moody's、Fitchすべて、A-を維持。R&IはAA-

銀行・生命を除く手元流動性1.1兆円、D/Eレシオ1.6倍。6月に社債700億円を発行、うち期間3年債の利率は0.03%

## (4) 投資パイプライン

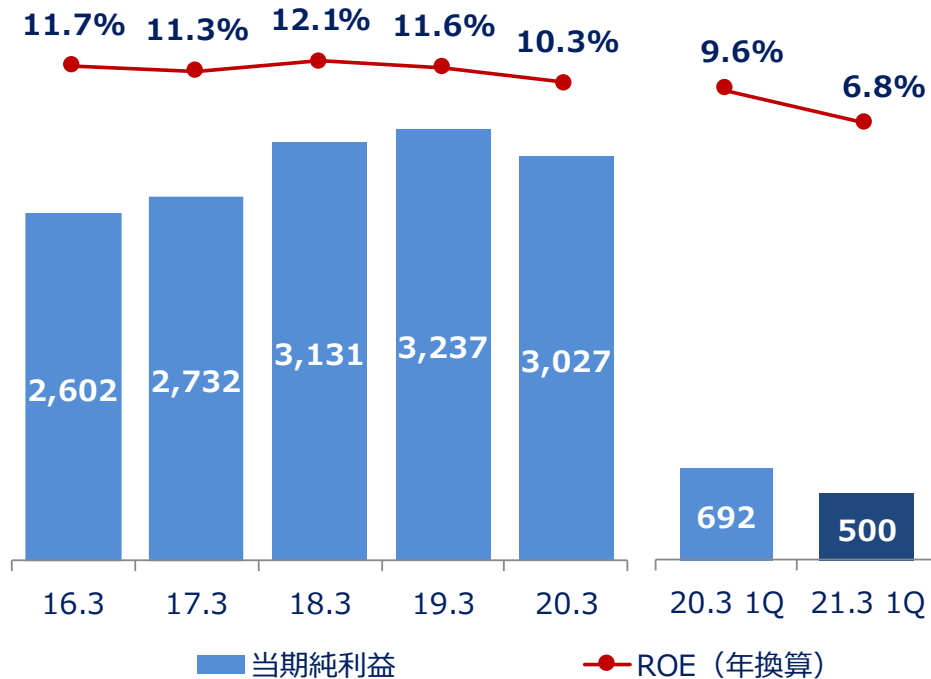
**国内外の投資パイプラインは潤沢**

# (1) 業績総括 当期純利益/ROE

- ✓ 当期純利益は 500億円（前年同期比▲27.7%）、ROE（年換算）は6.8%
- ✓ セグメント利益は 754億円（前年同期比▲29.0%）

当期純利益\*とROE

(億円)



ご参考:過去の四半期ROE

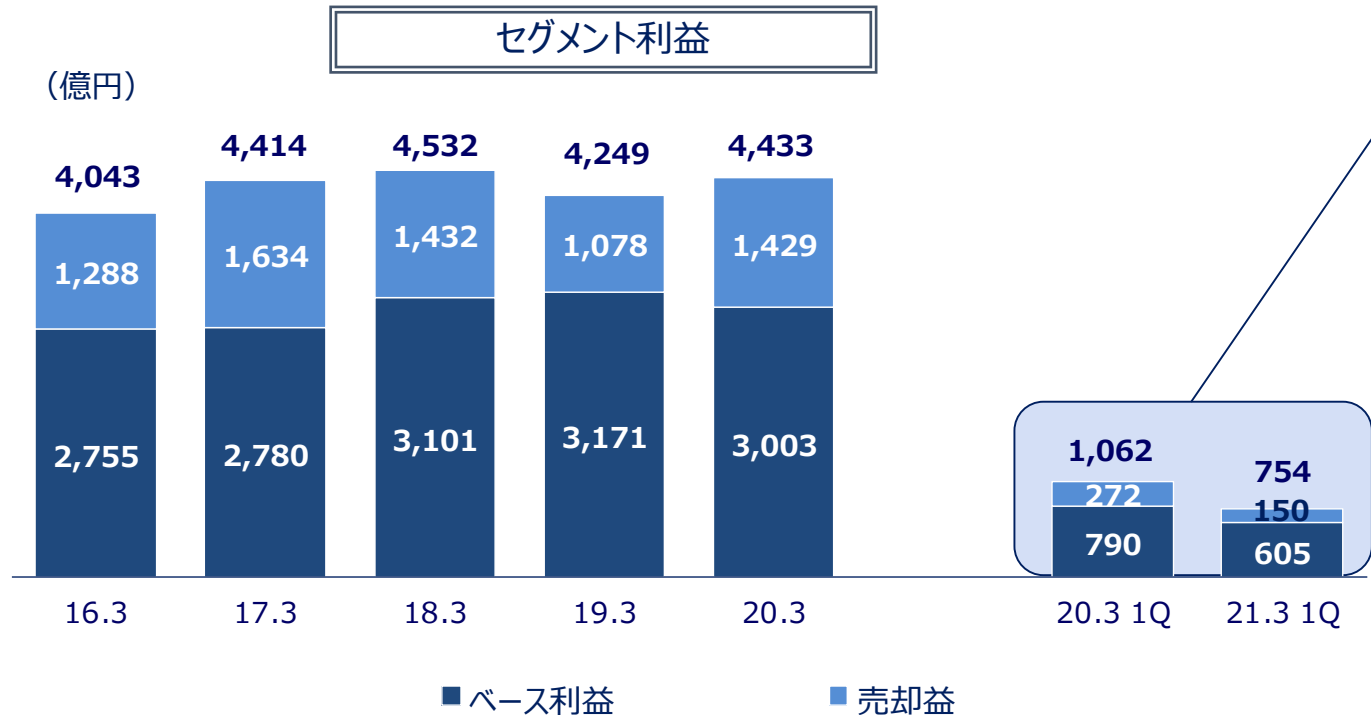


単四半期のROEは変動

\*「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」を指します

# (1) 業績総括 セグメント利益の内訳

21.3期1Q セグメント利益 <b>754億円</b> 前年同期比 ▲29.0% (▲308億円)	うち ベース利益	<b>605億円</b> 前年同期比▲23% (▲185億円) コロナ禍の影響を受け、不動産（運営）、コンセッション、航空機リース、自動車、米国が減益一方で、生命保険・銀行・クレジットは堅調
	うち 売却益*	<b>150億円</b> 前年同期比▲45% (▲122億円) 不動産売却益は前期並み。事業投資と米国の売却益が減少



\*主な売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など

# (1) 業績総括 1Qに含まれるコロナ禍による影響

- ✓ 不動産、航空機リース、コンセッション、ORIX USAを中心に減益
- ✓ 生命保険その他部門の利益は堅調

項目	背景	影響額
① 不動産（運営）	ホテル・旅館等、各種運営施設の稼働率低下・休館	▲60億円
② 航空機リース	機体売却益の減少、一部減損	▲50億円
③ コンセッション	旅客数が大幅減少（1～3月実績を3ヶ月遅れで取込）	▲40億円
④ 法人営業・メンテナンスリース	レンタカー売上、中古車価格の下落による売却益の減少等	▲50億円
⑤ ORIX USA	信用損失費用・減損の影響	▲90億円
⑥ その他（生命保険等）	旧ハートフォード生命の責任準備金戻入益	+50億円
上記合計	—	約▲240億円

\*上記は「セグメント利益ベース」

# (2) セグメント業績 セグメント変更

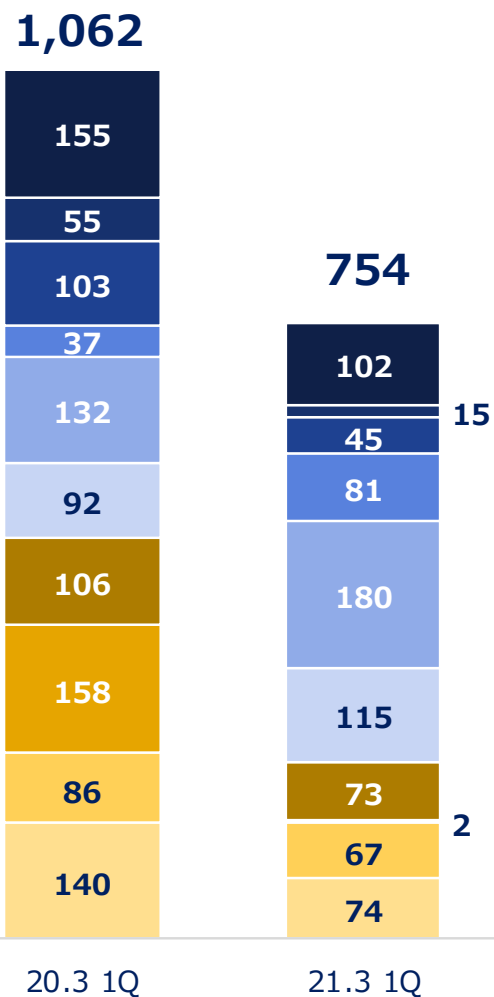
6 セグメント		16 ユニット	10 セグメント		16 ユニット	事業内容	
法人金融サービス	国内営業	弥生	1	法人営業・メンテナンスリース	法人営業	金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・IT関連機器などのリースおよびレンタル、弥生	
	自動車				弥生		
メンテナンスリース	自動車	レンタック	2	不動産	投資・運営		不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント
	レンタック				大京		
不動産	投資・運営	大京	3	事業投資・コンセッション	事業投資	企業投資、コンセッション	
	大京				コンセッション		
事業投資	事業投資	環境エネルギー	4	環境エネルギー	環境エネルギー	国内外再生可能エネルギー、電力小売、省エネルギーサービス、ソーラーパネル・蓄電池販売、廃棄物処理	
	コンセッション						
	環境エネルギー						
リテール	生命保険	銀行	5	保険	生命保険	生命保険	
	銀行				銀行		
	クレジット				クレジット		
海外	航空機・船舶	OCU	6	銀行・クレジット	銀行	銀行、カードローン	
	OCU				クレジット		
	OCE				輸送機器	輸送機器	航空機のリース・管理、船舶関連投融資
	アジア豪州等				アジア豪州等	8	ORIX USA
			9	ORIX Europe	ORIX Europe	株式・債券のアセットマネジメント	
			10	アジア・豪州	アジア・豪州	アジア・豪州における金融、投資	



## (2) セグメント業績 セグメント利益

(億円)

セグメント利益 (億円)

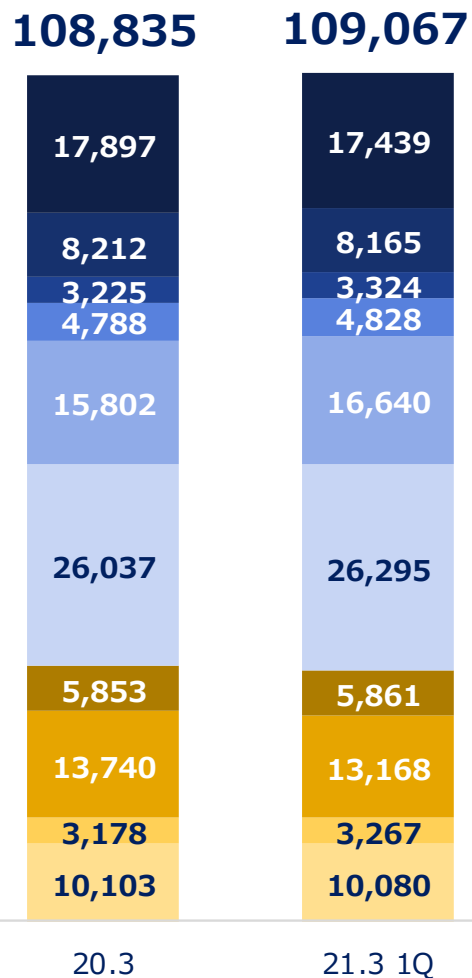


	セグメント利益	前年同期比	ハイライト
1 法人営業・メンテナンスリース	102	▲ 53	自動車でレンタカー需要の減少と中古車市場の下落の影響を受け、減益
2 不動産	15	▲ 40	5月末まで宿泊施設を一時全館休館した影響が大きく減益
3 事業投資・コンセッション	45	▲ 58	事業投資は投資先の利益は堅調だが、コンセッションは旅客数減少により、減益
4 環境エネルギー	81	44	太陽光発電事業は堅調。風力発電事業の買収会計の影響もあり増益
5 保険	180	48	生命保険は、通販など非対面募集が伸長。旧ハートフォード生命の戻入益もあり
6 銀行・クレジット	115	23	銀行は、優良な資産の積上げにより堅調。クレジットは増益
7 輸送機器	73	▲ 33	航空機は前期に機体数を減らした影響で減益、Avolonは一過性利益が貢献し増益
8 ORIX USA	2	▲ 155	前期に大口売却益。今期は、金融収益/サービス収益は堅調だが、与信費用増加
9 ORIX Europe	67	▲ 18	市場の下落に伴うAUMの減少により、減益。市況は回復基調
10 アジア・豪州	74	▲ 66	前期に売却益を計上した影響、現地法人の信用損失費用が増加
<b>合計</b>	<b>754</b>	<b>▲ 308</b>	—

## (2) セグメント業績 セグメント資産

(億円)

セグメント資産 (億円)

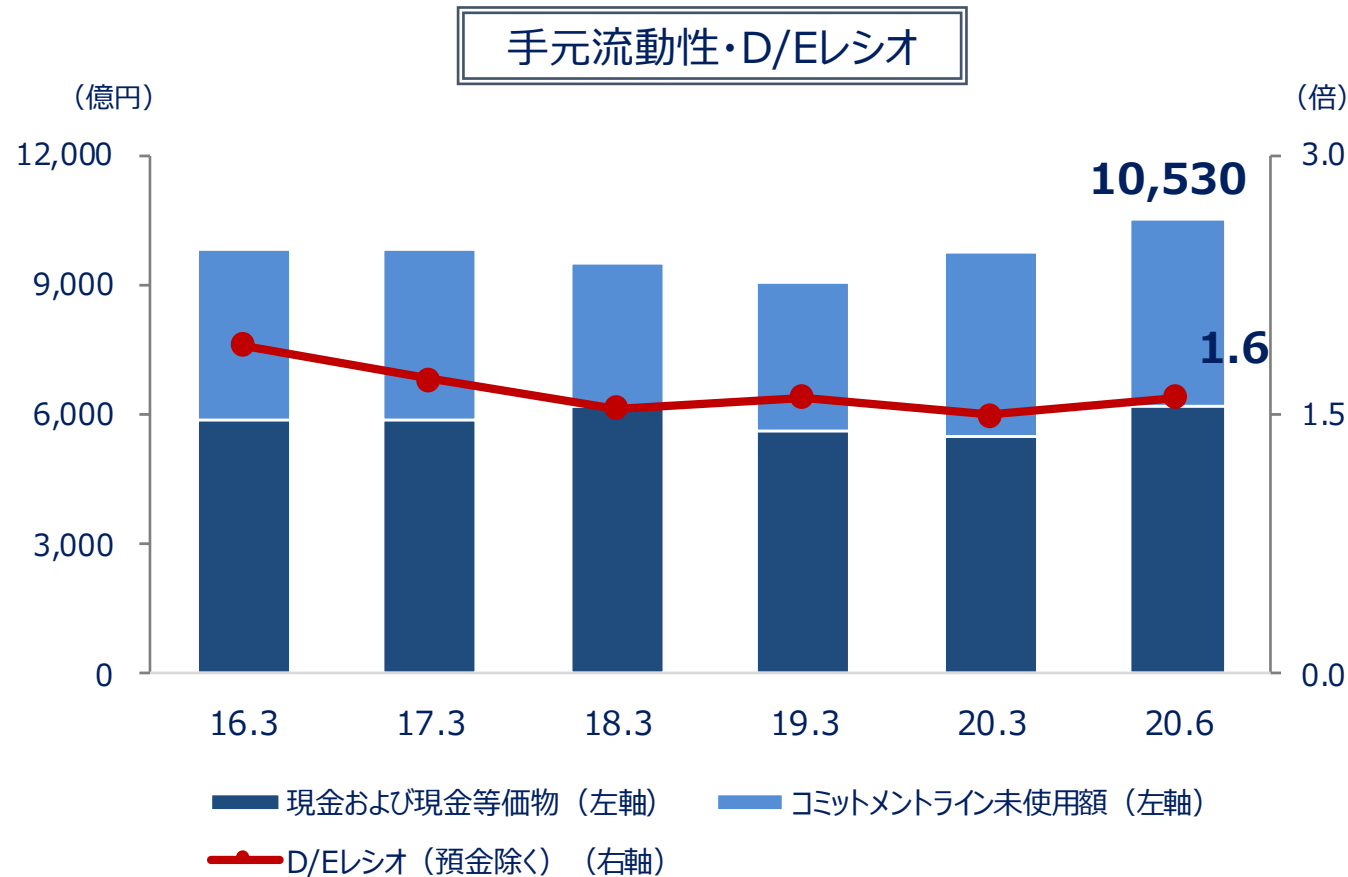


	セグメント資産	前期末比	ハイライト
1	法人営業・メンテナンスリース	▲ 458	案件選別を続けており、金融資産は緩やかに減少
2	不動産	▲ 47	—
3	事業投資・コンセッション	99	—
4	環境エネルギー	40	—
5	保険	838	投資有価証券が増加
6	銀行・クレジット	257	銀行は貸付金残高が増加。クレジットの貸付金残高は減少
7	輸送機器	8	航空機事業で、新規実行を抑制したため、横ばい。為替影響▲56
8	ORIX USA	▲ 572	営業貸付金が減少。為替影響▲137
9	ORIX Europe	89	為替影響+41
10	アジア・豪州	▲ 23	新規実行を抑制したため、横ばい。為替影響+223
	<b>合計</b>	<b>231</b>	—



### (3) 財務健全性 手元流動性/格付

- ✓ 流動性：銀行・生命を除く手元流動性1.1兆円、D/Eレシオ1.6倍
- ✓ 格付：7月に据置を公表したS&Pをはじめ、Moody's、Fitchすべて、A-を維持。R&IはAA-



格付

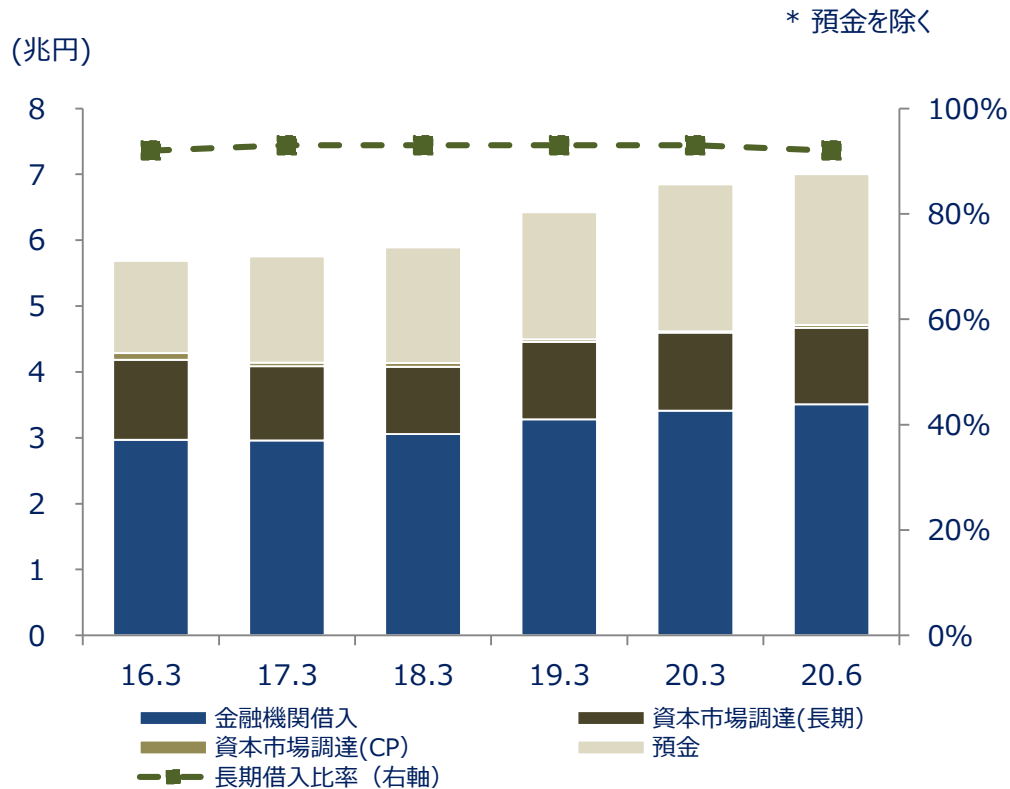
(2020年6月末時点)

格付一覧	
S&P	A- (ネガティブ)
Moody's	A3 (ネガティブ)
Fitch	A- (ネガティブ)
R&I	AA- (安定的)

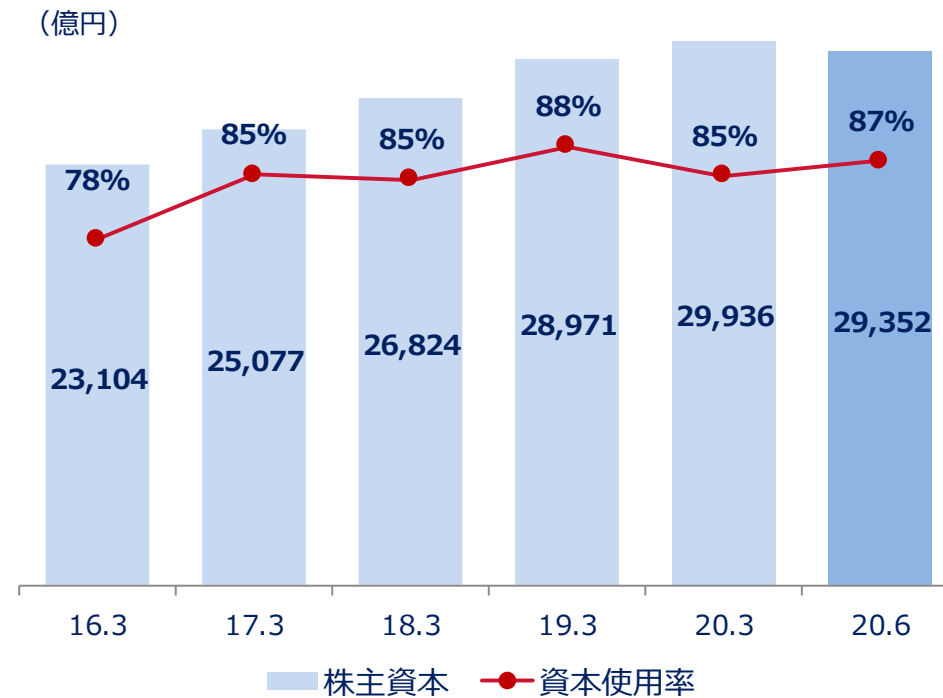
# (3) 財務健全性 資金調達構造/株主資本使用率

- ✓ 資金調達構造 : 資金調達手法を多様化、高い長期借入比率を維持
- ✓ 株主資本使用率 : オリックスの株主資本に対して、どれほど資本を使用しているかを示す比率  
引き続き、リスク/リターンをコントロールしつつ成長を目指す

調達構造・長期借入比率\*



株主資本/資本使用率



## (4) 投資パイプライン

- ✓ コロナ禍でも順調にパイプラインを確保
- ✓ 投資目線に合う案件を選別し、今期中に複数案件のクローズを目指す

分野	内容	パイプライン
環境エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国内外での再エネ事業会社への投資</li> </ul>	3,000億円
アセットマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存投資先（資産運用会社）のロールアップ案件</li> </ul>	2,000億円
プライベートエクイティ投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国内：ヘルスケア、既存投資先のロールアップ案件</li> <li>• 海外：米国、アジア中心の投資案件</li> </ul>	2,500億円
不動産	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ホテルや複合施設など既存案件における追加投資</li> <li>• 長期的な目線でのバリューアップ施策</li> </ul>	2,500億円
MICE-IR	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大阪案件の獲得推進</li> </ul>	6,500億円
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上記以外の新規投資案件</li> </ul>	3,500億円
		合計 2.0 兆円

**21.3期 1Q 当期純利益は、500億円 (前年同期比▲27.7%)、ROE (年換算) 6.8%**

**6セグメントから10セグメントへ、海外の開示を中心に拡充**

**国内外の投資パイプラインは潤沢  
A格以上を維持、高い手元流動性を確保**

# セグメント実績

(空白)

# セグメント別実績 (1) 法人営業・メンテナンスリース

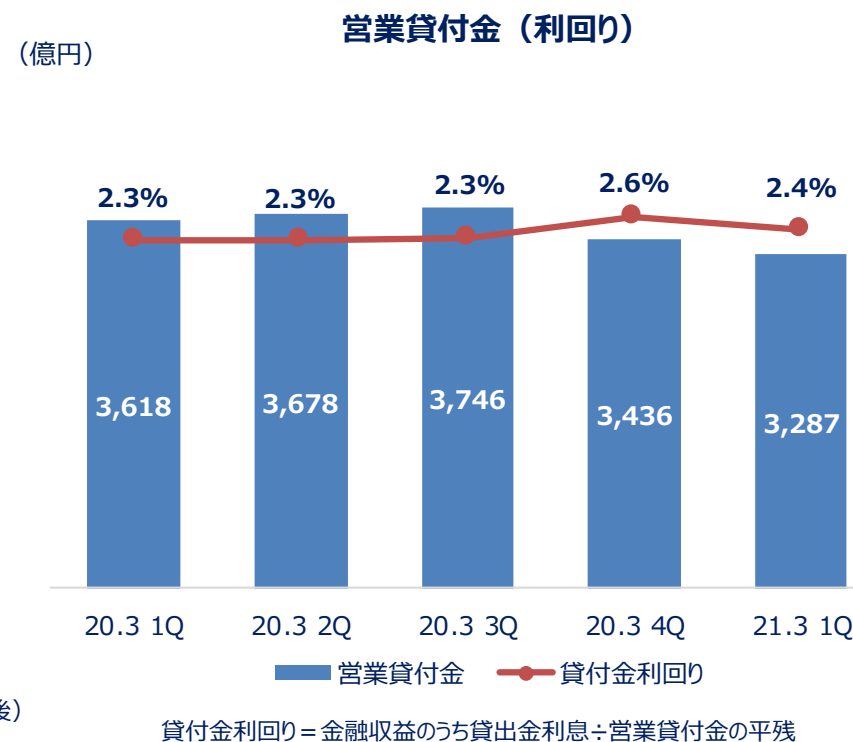
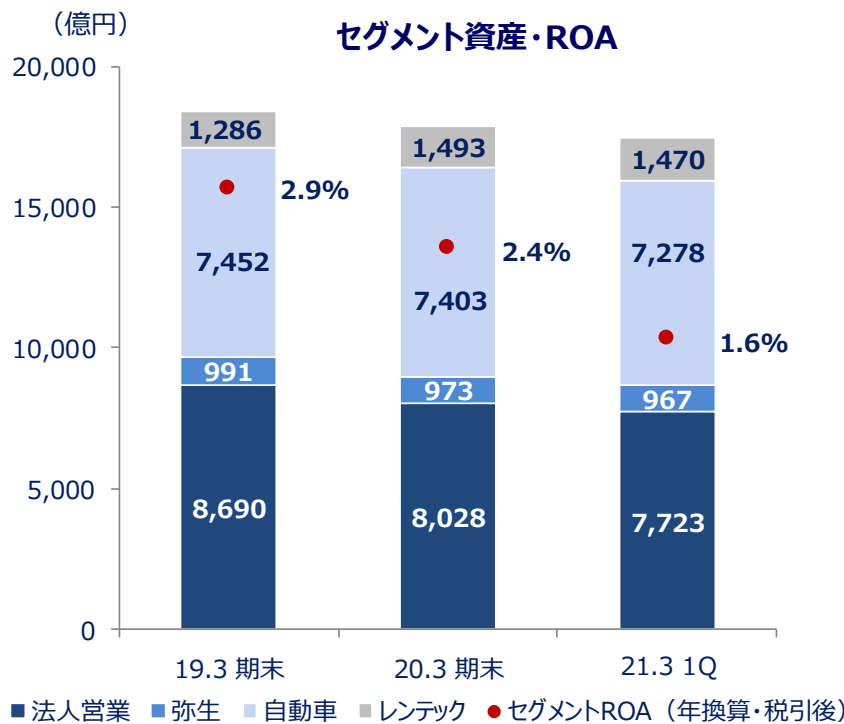
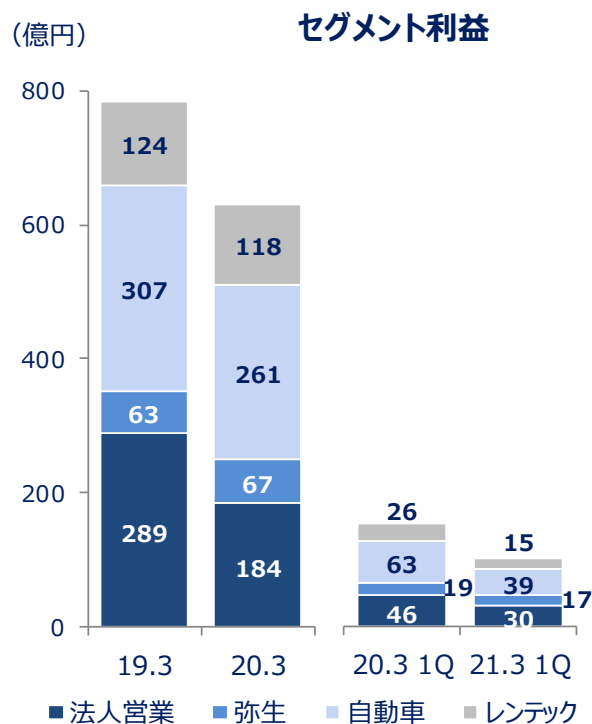
\*1億円未満を四捨五入して表示しているため、各ビジネスユニットの合計値は、必ずしもセグメント数値とは合致しません

**セグメント利益：102億円** 前年同期比 ▲53億円 (▲34%)

- ✓ 法人営業は、前期にバーゲンパーチェス益を計上
- ✓ 自動車は、レンタカーの需要が減少、中古車市場が下落  
(足元では、個人需要から回復の兆し、中古車市場も回復基調)
- ✓ レンテックは、需要増も、技術センターの稼働率を抑制したため減益

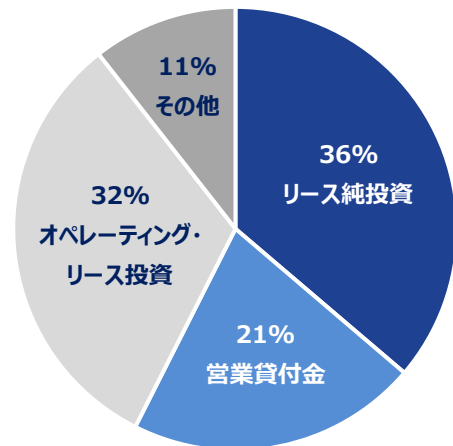
**セグメント資産：17,439億円** 前期末比 ▲458億円 (▲3%)

- ✓ 案件選別を続けており、金融資産は緩やかに減少

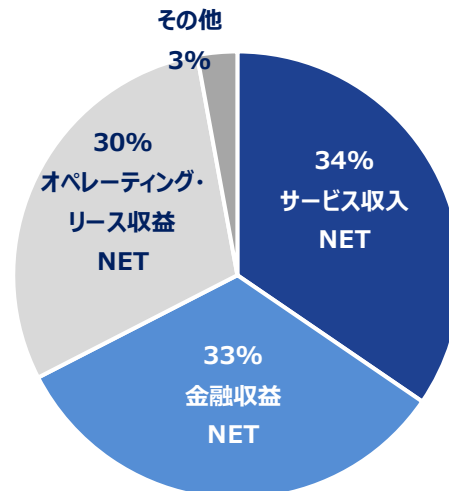


セグメント事業内容：金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・I T 関連機器などのリースおよびレンタル、弥生

### セグメント資産（20.3期末）



### セグメント収益 NET\*（20.3期）



### 全国に広がる法人営業のネットワーク



\*セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）



# セグメント別実績 (2) 不動産

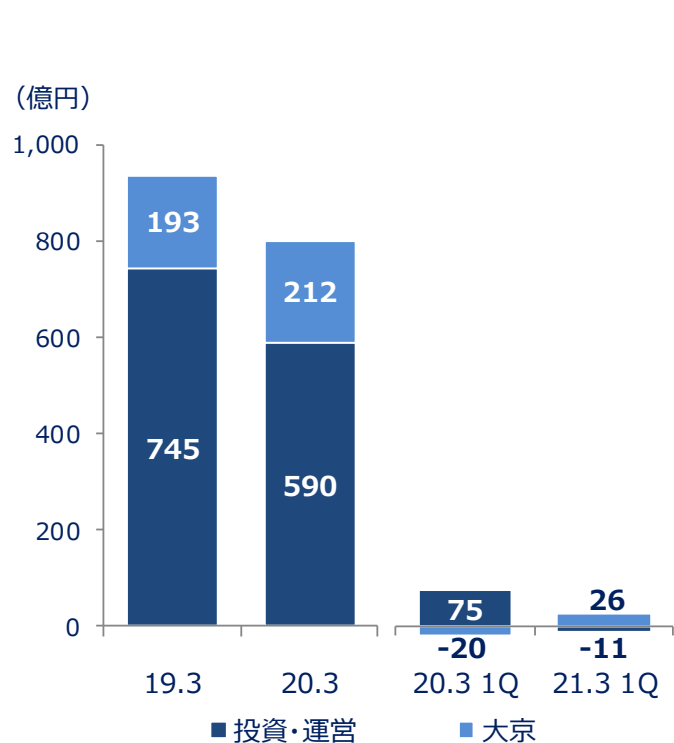
**セグメント利益：15億円** 前年同期比 ▲40億円 (▲73%)

- ✓ 投資・運営は、5月末まで宿泊施設を一時全館休館した影響により減益 (6月から宿泊施設は稼働率を制限しながら順次再開)
- ✓ 大京は、マンションの販売戸数増加により増益

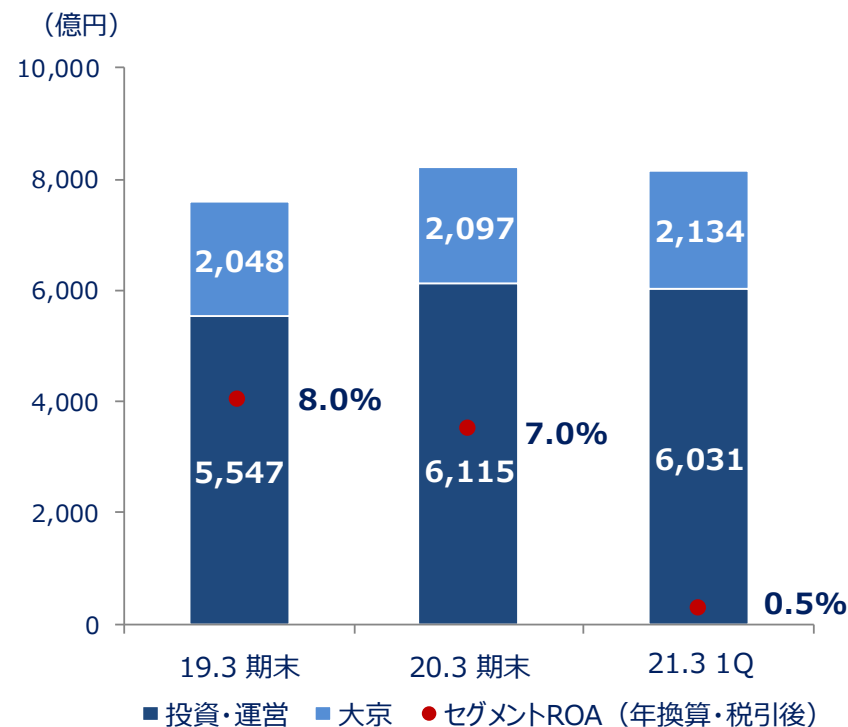
**セグメント資産：8,165億円** 前期末比 ▲47億円 (▲1%)

- ✓ 全体として、資産は横ばい
- ✓ 不動産のアセットマネジメントにおけるAUMは順調に増加

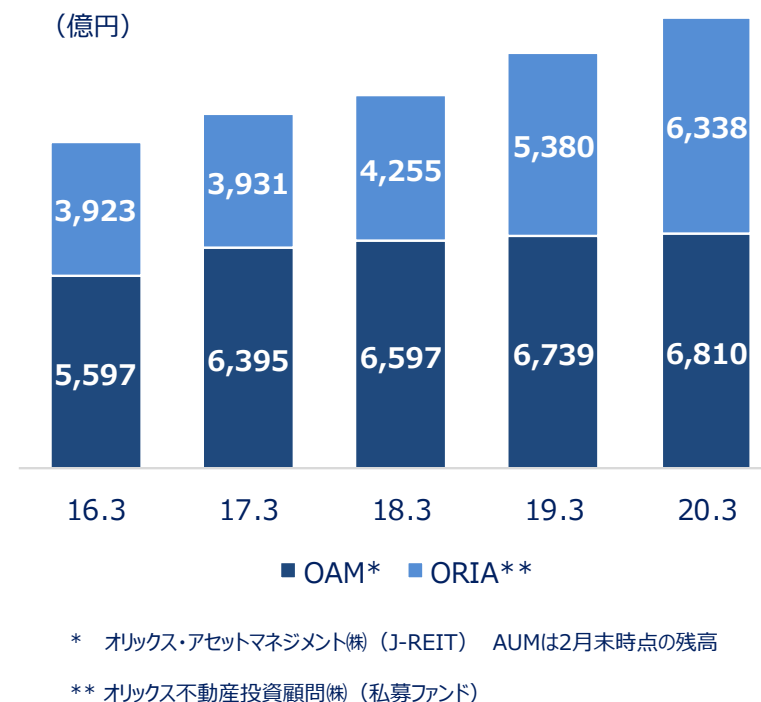
セグメント利益



セグメント資産・ROA

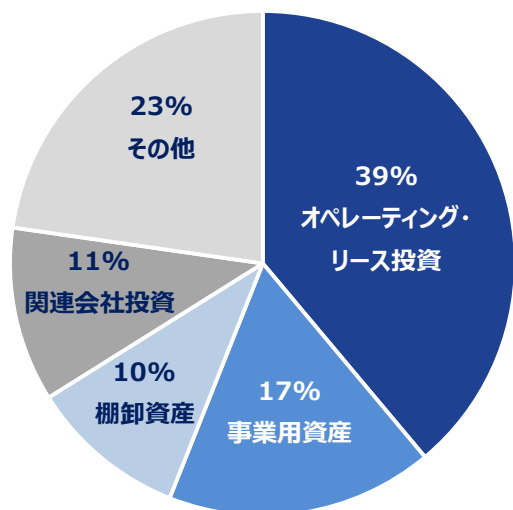


AUMの推移

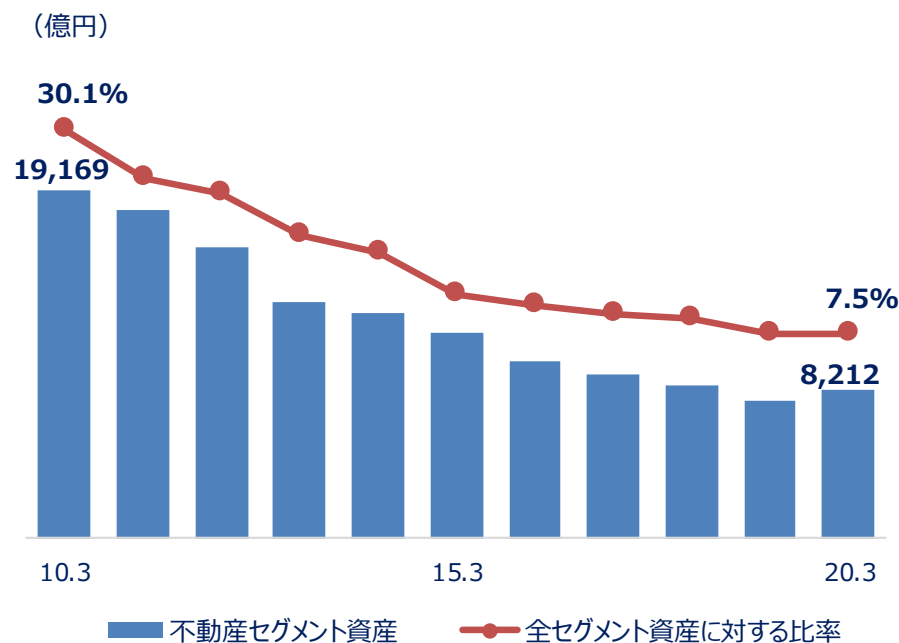


セグメント事業内容：不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント

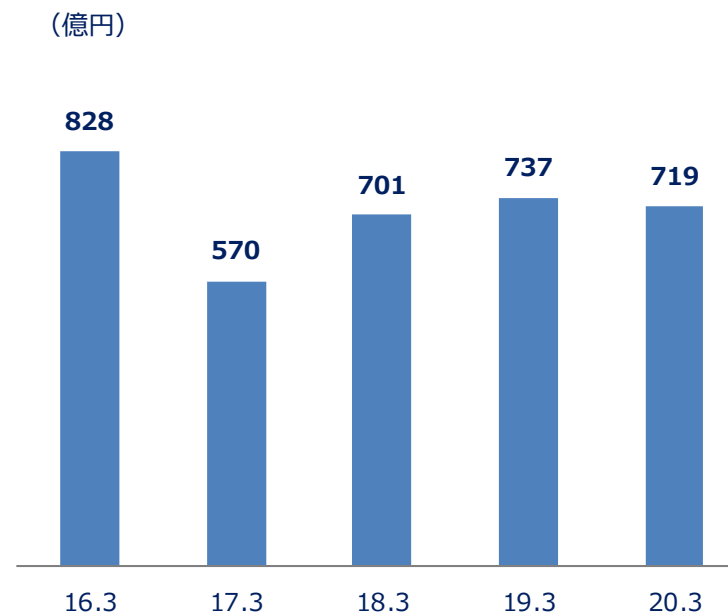
### セグメント資産（20.3期末）



### セグメント資産の推移



### 賃貸不動産の含み益\*



\*不動産以外のセグメントの賃貸不動産も含む  
運営事業の資産は含まない

# セグメント別実績 (3) 事業投資・コンセッション

**セグメント利益：45億円** 前年同期比 ▲58億円 (▲56%)

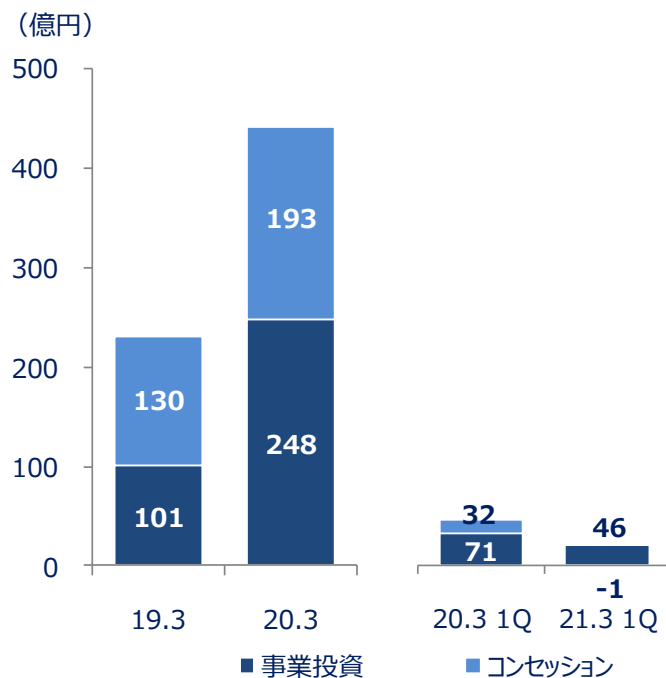
- ✓ 事業投資は、投資先からの取込利益は堅調に推移  
ただし、前期に売却益を計上したため、減益
- ✓ コンセッションは、関西エアポートで旅客数が減少  
(1~3月実績を3ヶ月遅れで取込)

**セグメント資産：3,324億円** 前期末比 +99億円 (+3%)

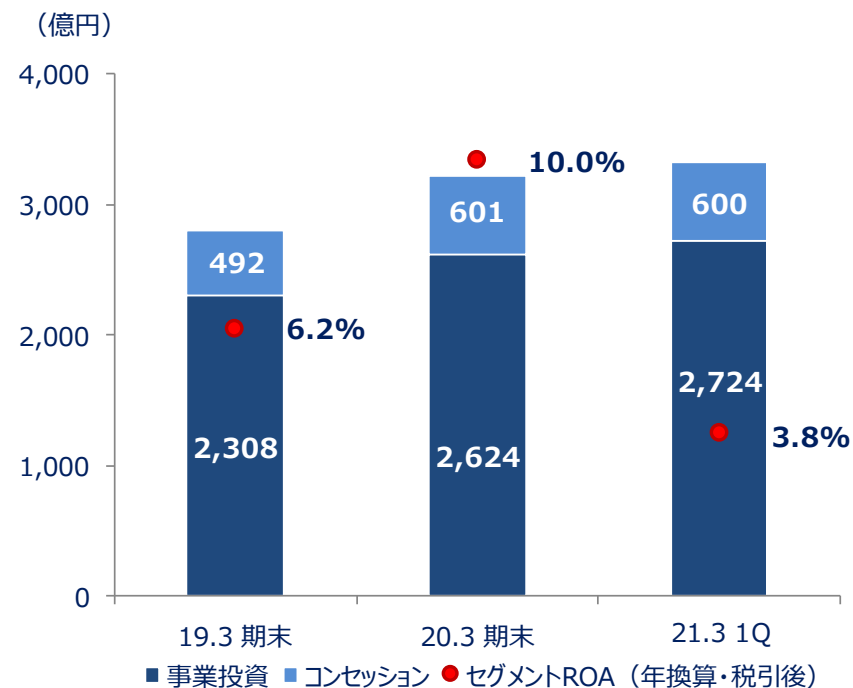
- ✓ 国内PE投資でヘルスケア分野で新規投資1件\*実施、EXITなし
- ✓ コンセッションは、横ばい

\*同仁医薬化工(株)：医療用および一般用医薬品の製造・販売

セグメント利益



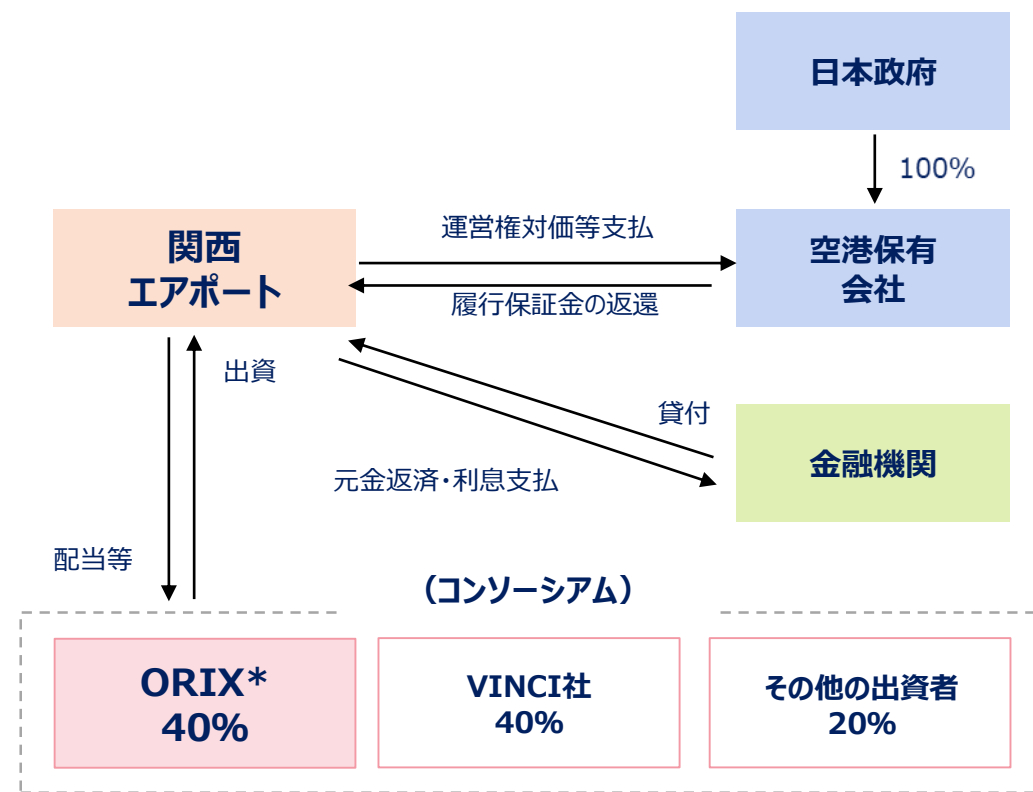
セグメント資産・ROA



セグメント事業内容：（事業投資）国内でのプライベートエクイティ投資  
（コンセッション）空港や下水処理場の運営

主な投資中の案件（国内PE投資）		
企業名	投資開始	分野
小林化工	20.3期	後発医薬品の製造・販売
ワコーパレット	20.3期	物流資材の販売・レンタル
コーンズ・エージ	19.3期	酪農機器サービス
プリマジェスト	18.3期	情報処理サービス
コイケ	17.3期	電子材料製造
フジタ製薬	17.3期	動物向け医薬品製造販売
微生物化学研究所	17.3期	動物用ワクチンメーカー
イノメディックス	15.3期	医療機器販売
ネットジャパン	15.3期	貴金属リサイクル大手

## コンセッション（空港運営）について



\*実行より4年間で、当初出資額に近い配当を受領済

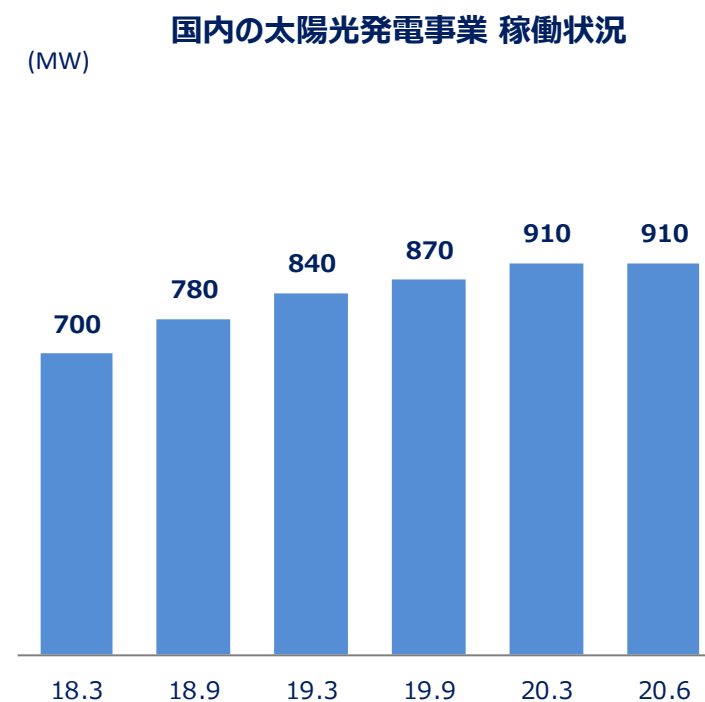
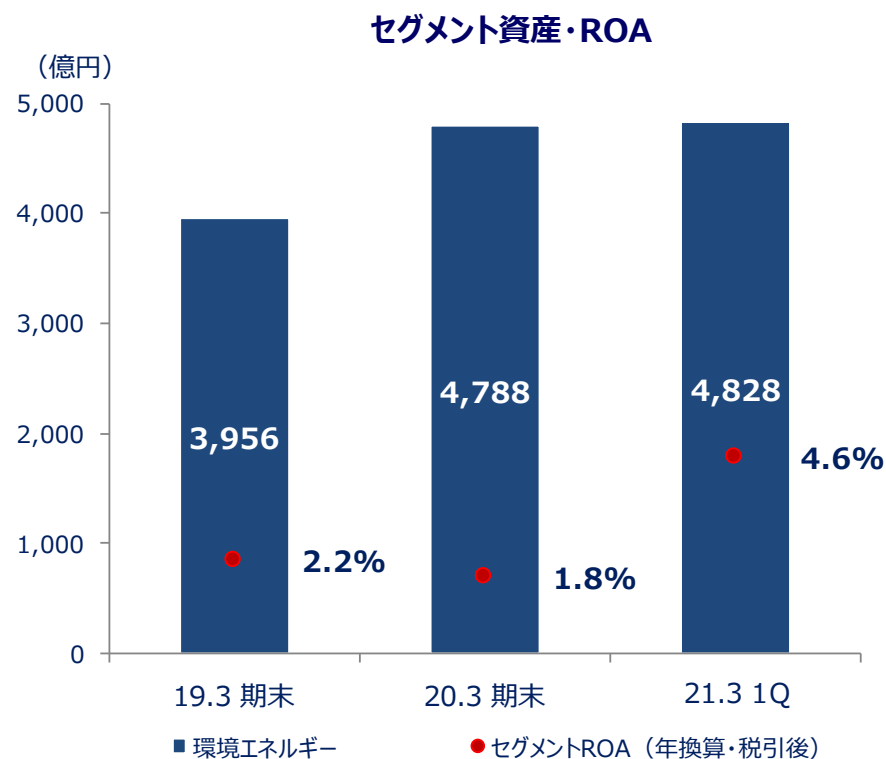
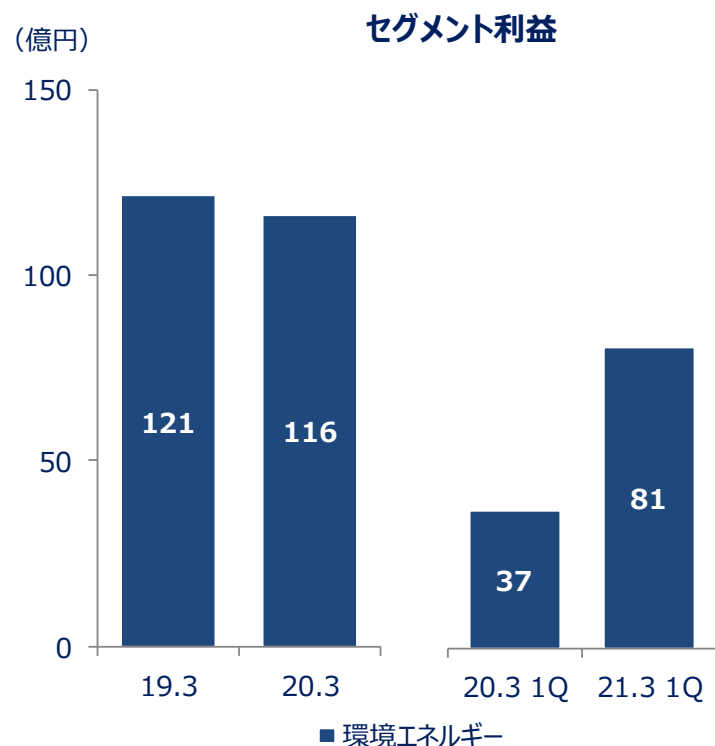
# セグメント別実績 (4) 環境エネルギー

**セグメント利益 : 81億円** 前年同期比 +44億円 (+118%)

- ✓ 太陽光発電事業が堅調
- ✓ 前期に追加投資したインドの風力事業で買収会計の影響もあり増益

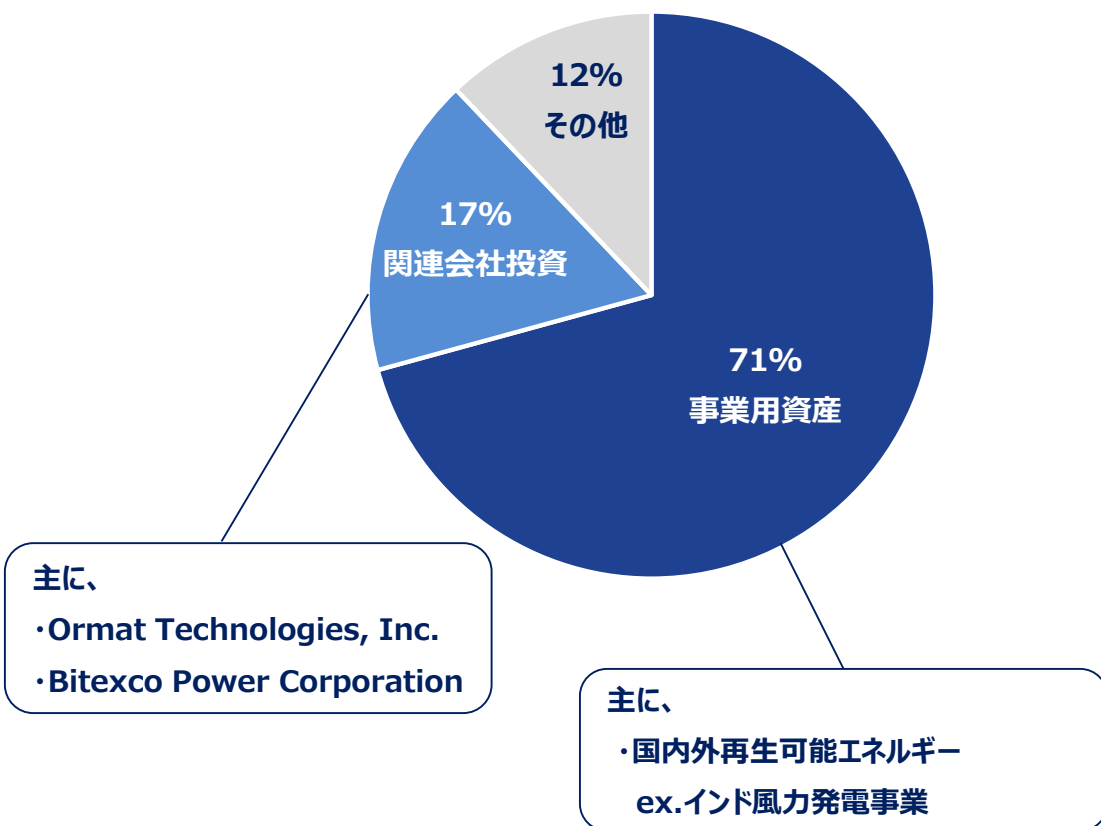
**セグメント資産 : 4,828億円** 前期末比 +40億円 (+1%)

- ✓ 資産は横ばい



セグメント事業内容：国内外再生可能エネルギー、電力小売、省エネルギーサービス、ソーラーパネル・蓄電池販売、廃棄物処理

セグメント資産（20.3期末）



(2020年3月末時点)

海外の主な投資先（再生可能エネルギー）

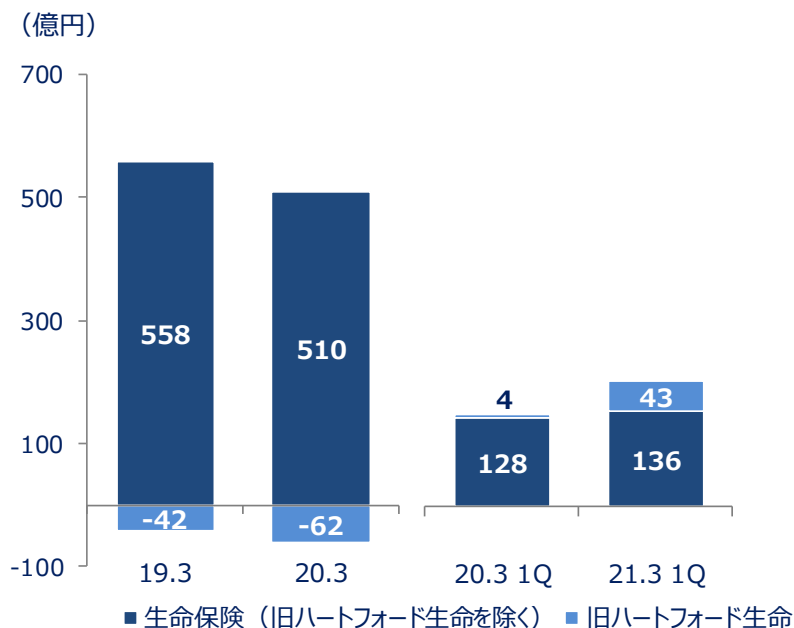
投資先	地域	事業内容	設備容量*	持分比率
Ormat Technologies, Inc.	米国	地熱発電	914MW	21%
風力発電事業	インド	風力発電	873MW	100%
Bitexco Power Corporation	ベトナム	水力発電 および 太陽光発電	895MW	6%

\*設備容量は、持分比率考慮せず

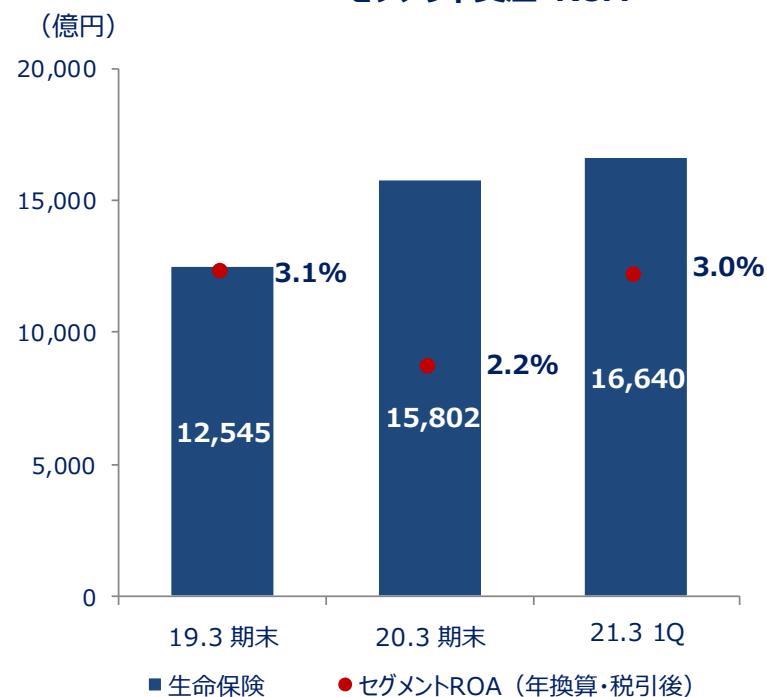
# セグメント別実績 (5) 保険

セグメント利益：180億円	前年同期比 +48億円 (+36%)	セグメント資産：16,640億円	前期末比 +838億円 (+5%)
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 生命保険は、通販などの非対面募集が伸長</li> <li>✓ 旧ハートフォード生命は、マーケット回復に伴う責任準備金戻入があり増益</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 生命保険の資産運用で、投資有価証券が増加</li> </ul>	

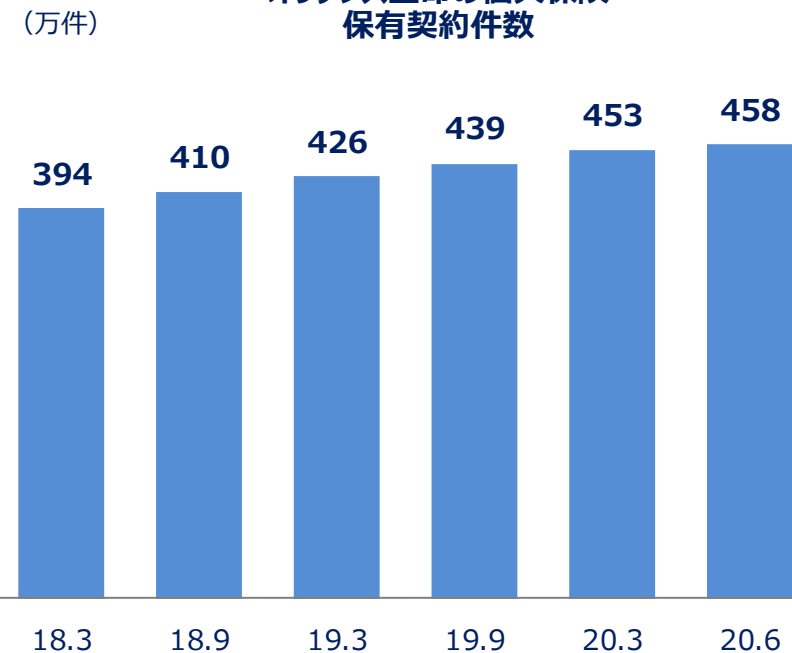
セグメント利益



セグメント資産・ROA

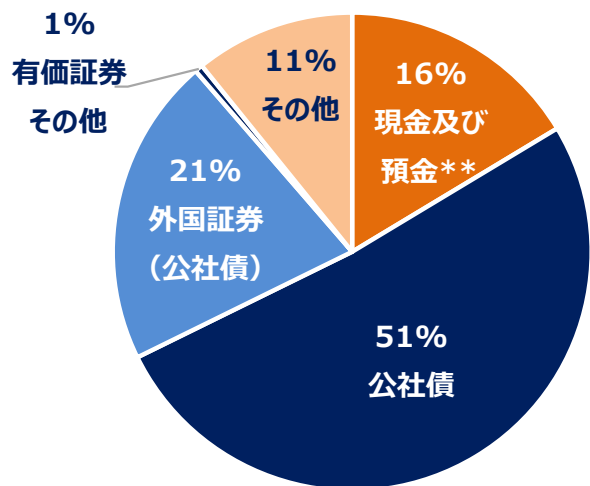


オリックス生命の個人保険  
保有契約件数

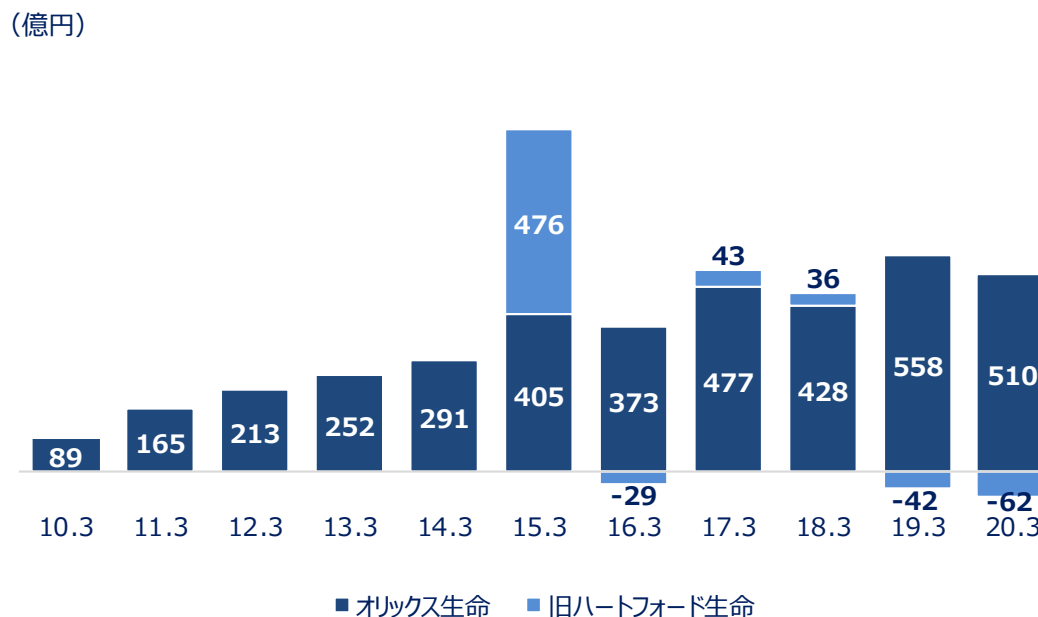


- 「シンプルでわかりやすいこと」「合理的な保障をお手頃な価格で提供すること」をコンセプトに、お客さまのニーズに応える商品ラインアップを拡充
- 4種類の販売チャネル（保険代理店、金融機関代理店、通信販売、オリックス生命社員による対面コンサルティング）を横断してお客さまへ最適な商品、サービスを提供するオムニチャネル化を推進

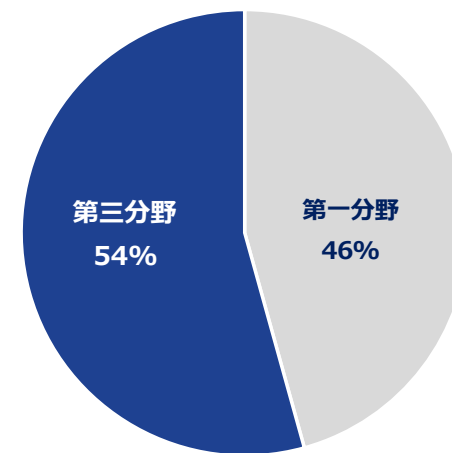
一般勘定資産の内訳\*（20.3期末）



セグメント利益の推移\*



保有契約（年換算保険料）（20.3期末）



\* オリックス生命 決算開示資料にて公表の数値（日本会計基準）  
 \*\*セグメント資産には現金及び預金は含まれていません

\* 15年3月期は、旧ハートフォード生命取得に伴うバーゲンパーチェス益を計上

・第一分野（死亡保障など）  
 ・第三分野（医療保険・がん保険など）



# セグメント別実績 (6) 銀行・クレジット

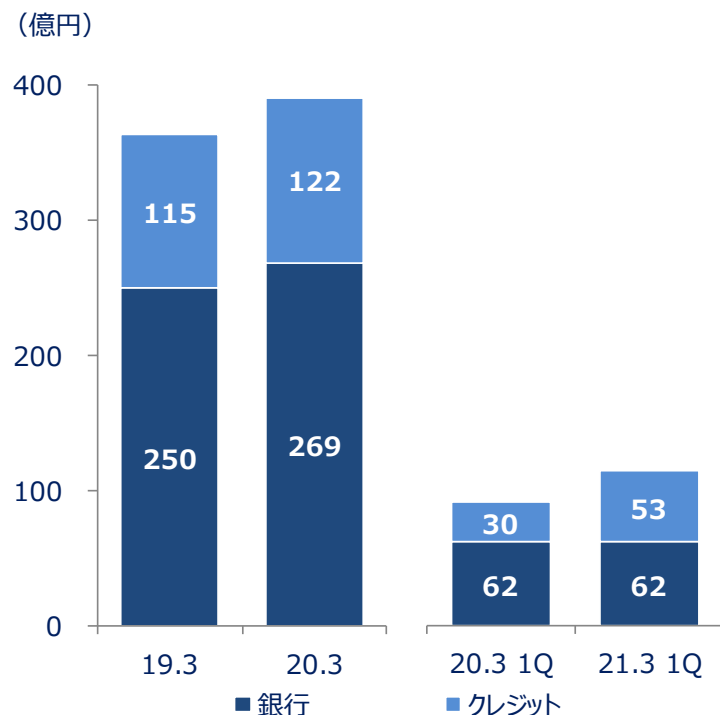
**セグメント利益：115億円** 前年同期比 +23億円 (+25%)

- ✓ 銀行は、優良な資産の積上げにより堅調
- ✓ クレジットは、信用損失費用の減少もあり、増益

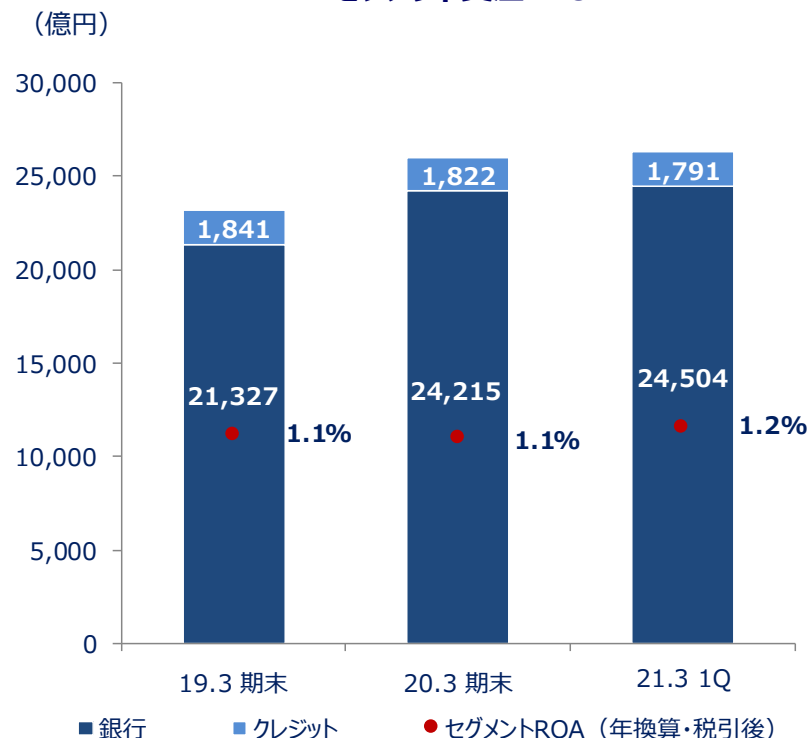
**セグメント資産：26,295億円** 前期末比 +257億円 (+1%)

- ✓ 銀行は、非対面営業を活用しながら投資用不動産ローンの需要を取込む
- ✓ クレジットは、需要減少に伴い、貸付金残高が減少

セグメント利益



セグメント資産・ROA



利回り・資金粗利鞘\*

(2020年3月末時点)

オリックス銀行 (単体)	
資金運用利回り	2.12%
資金調達利回り	0.18%
<b>資金粗利鞘</b>	<b>1.94%</b>

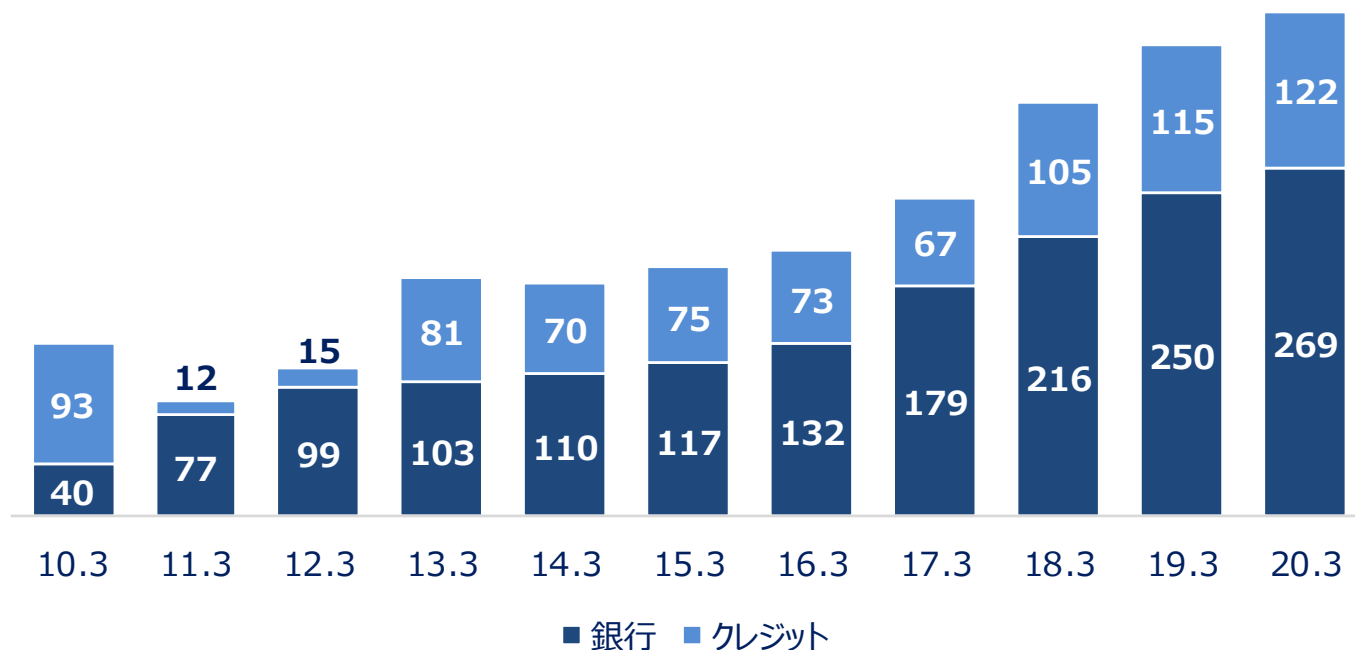
\*オリックス銀行の決算開示資料にて公表の数値 (日本会計基準)

資金運用利回り = 資金運用勘定における利息(大半が貸付金利息) ÷ 平均残高  
 資金調達利回り = 資金調達勘定における利息 ÷ 平均残高  
 資金粗利鞘 = 資金運用利回り - 資金調達利回り

- 銀行は、投資用不動産ローン、カードローン、信託商品や投資信託など特色のある商品・サービスを提供  
店舗網やATM、決済機能を持たず、原則固定費をかけないビジネスモデル
- クレジットは、ローン、信用保証、モーゲージバンクの3つの柱で、リテール向けの事業を展開

## セグメント利益の推移

(億円)



(2020年3月末時点)

オリックス銀行 (単体) 主要指標*	
ROE	9.3%
不良債権比率	0.37%
格付	AA- (R&I)

\*オリックス銀行の決算開示資料にて公表の数値  
(日本会計基準)

# セグメント別実績 (7) 輸送機器



**セグメント利益：73億円** 前年同期比 ▲33億円 (▲31%)

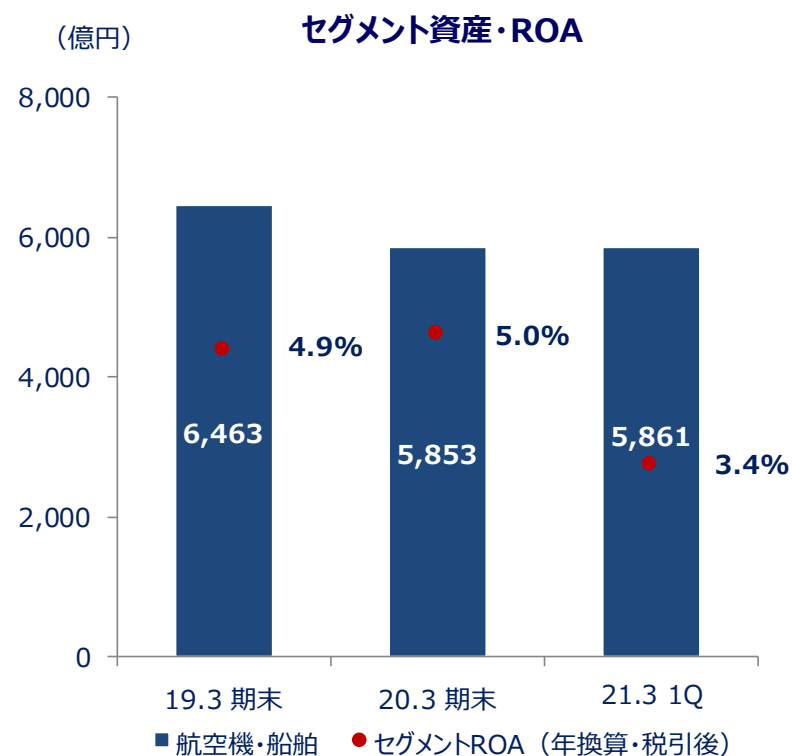
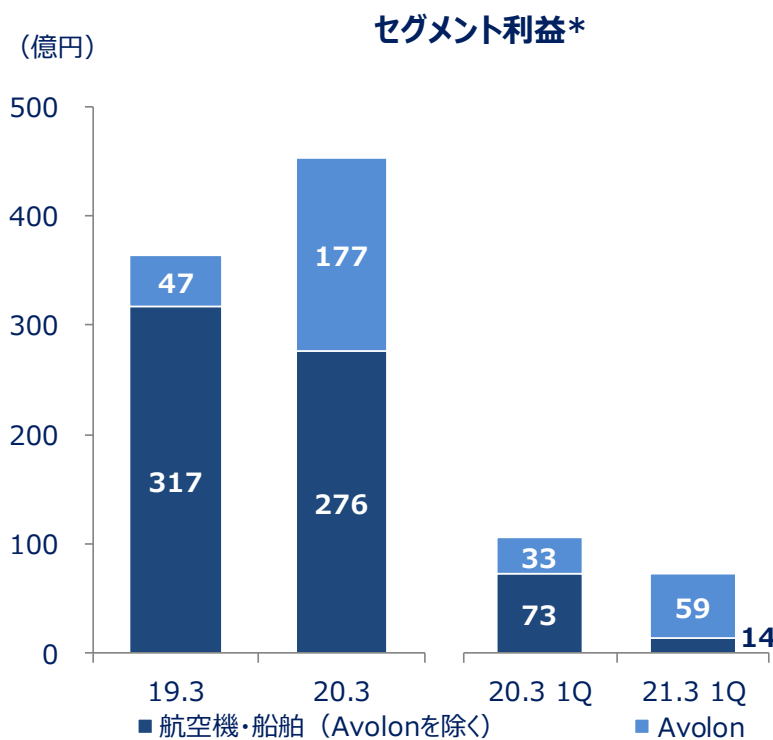
- ✓ 航空機は、今期は売却益が減少
- ✓ Avolonは、リース料収入減も、一過性利益を計上したため増益

**セグメント資産：5,861億円** 前期末比 +8億円 (横ばい)

- ✓ 航空機リース事業で新規投資を抑制したため、横ばい
- ✓ 為替影響▲56億円を除くと、前期末比+64億円

## 航空機リース事業

(2020年6月末時点)



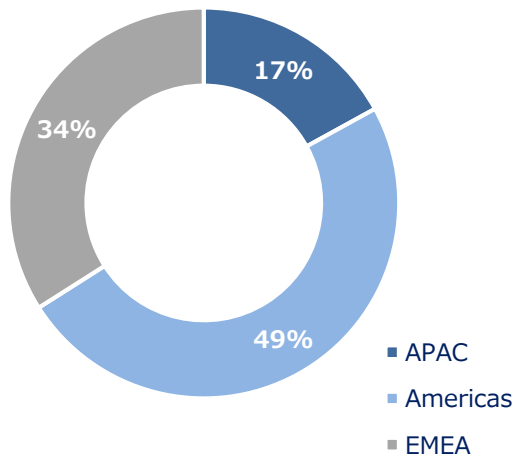
	オリックス 航空機リース事業	Avolon
業歴	<b>42年</b> ファイナンスリースから開始 (1991年ORIX Aviation設立)	<b>10年</b> (2010年設立)
ビジネス モデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>中古マーケットでのトレーディングが主力</li> <li>第三者に対する機体購入のアレンジメントやアセットマネジメントサービスに強み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空機メーカーに大口発注</li> <li>発注機のリースに強み</li> </ul>
オリックス 出資比率	<b>100%</b>	<b>30%</b> (2018年11月取得)
格付	S&P：最上位Strong (サービサー格付)	Fitch : BBB- Moody's : Baa3 S&P : BBB-

\*Avolonのセグメント利益は、米国会計基準に組み替えを実施しているため、Avolonが国際会計基準に基づき公表している数値とは異なります

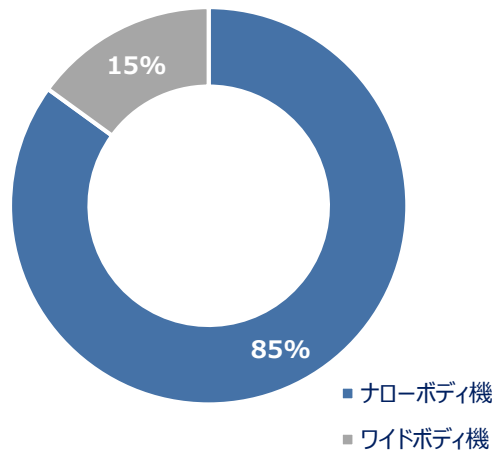
# 航空機リース事業について

## オリックス 航空機リース事業

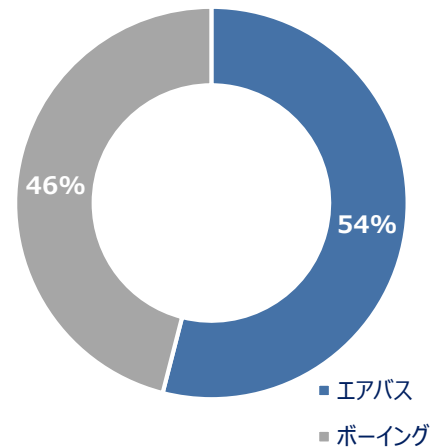
地域分布  
(簿価ベース)



機種分布  
(機数ベース)

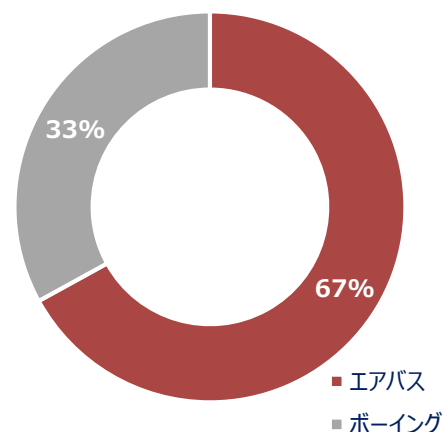
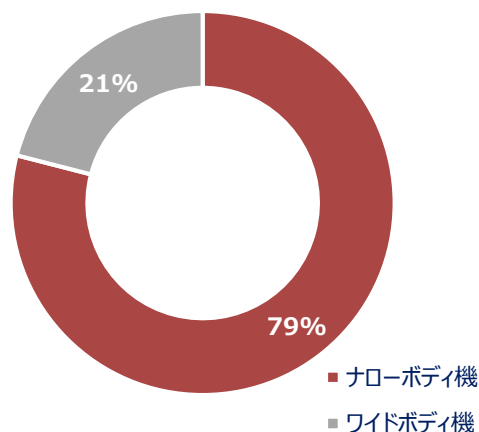
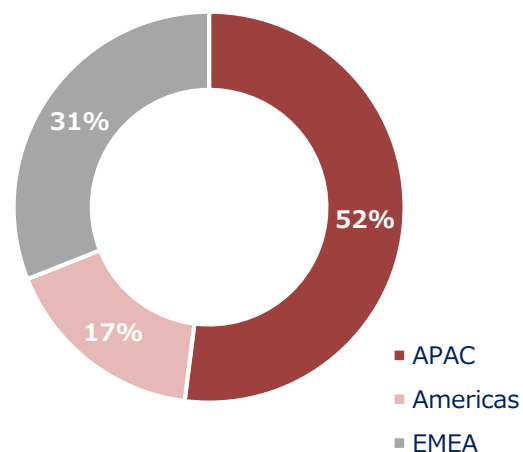


メーカー分布  
(機数ベース)



保有機数	72機	発注機数	0機
平均機齢	5.7年		
平均残リース期間	7.1年	管理機数	136機

## Avolon



保有機数	486機	発注機数*	277機
平均機齢	5.2年	*メーカー発注のキャンセル等により2019年12月末時点の400機から減少	
平均残リース期間	6.8年	2021年末までの発注機は全機リース契約締結済み ボーイング737MAXでレシー確保が必要となるのは2024年以降	

2020年6月末時点

# セグメント別実績 (8) ORIX USA



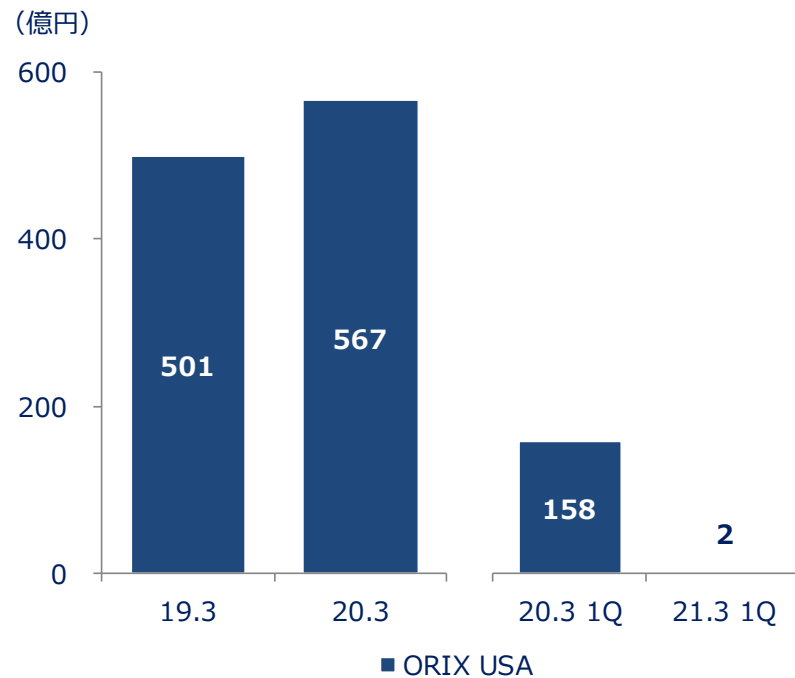
**セグメント利益：2億円** 前年同期比 ▲155億円 (▲98%)

- ✓ 前期にHoulihan社の売却益を計上、今期にエネルギー関連向けを中心に追加引当金を計上した影響もあり、大幅減益
- ✓ 一方、金融収益、サービス収益は堅調、前期買収のHunt社も寄与

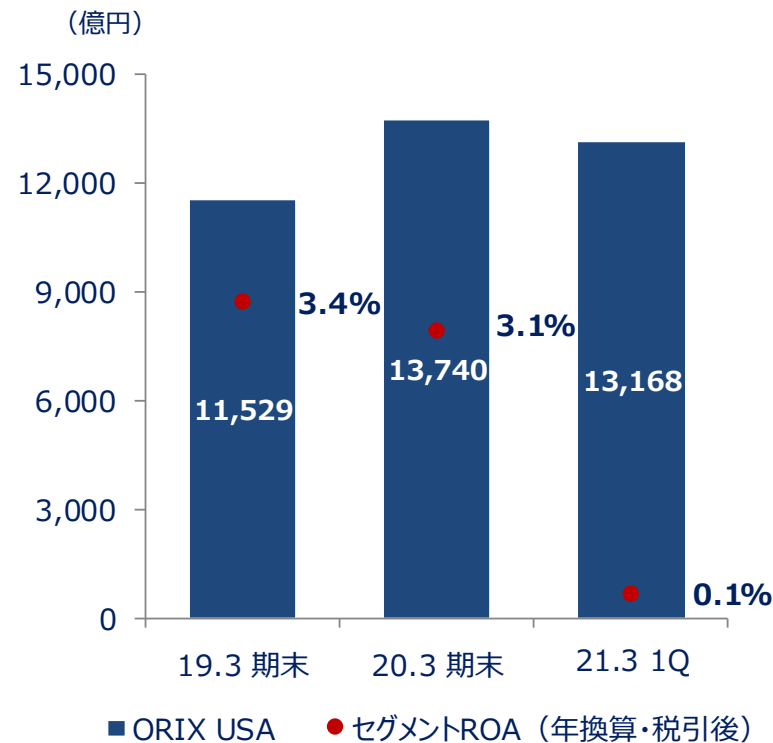
**セグメント資産：13,168億円** 前期末比 ▲572億円 (▲4%)

- ✓ 営業貸付金が減少
- ✓ 為替影響▲137億円を除くと、前期末比▲435億円
- ✓ AUMは順調に増加

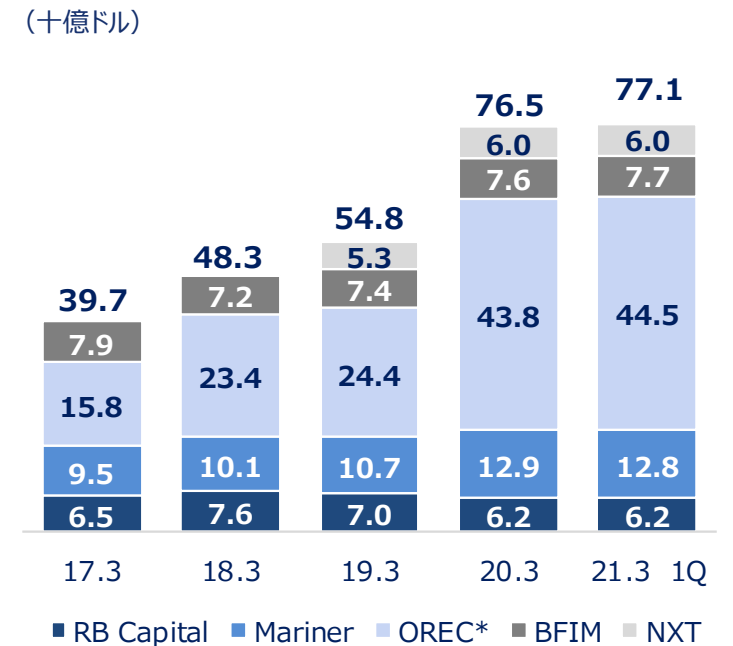
セグメント利益



セグメント資産・ROA



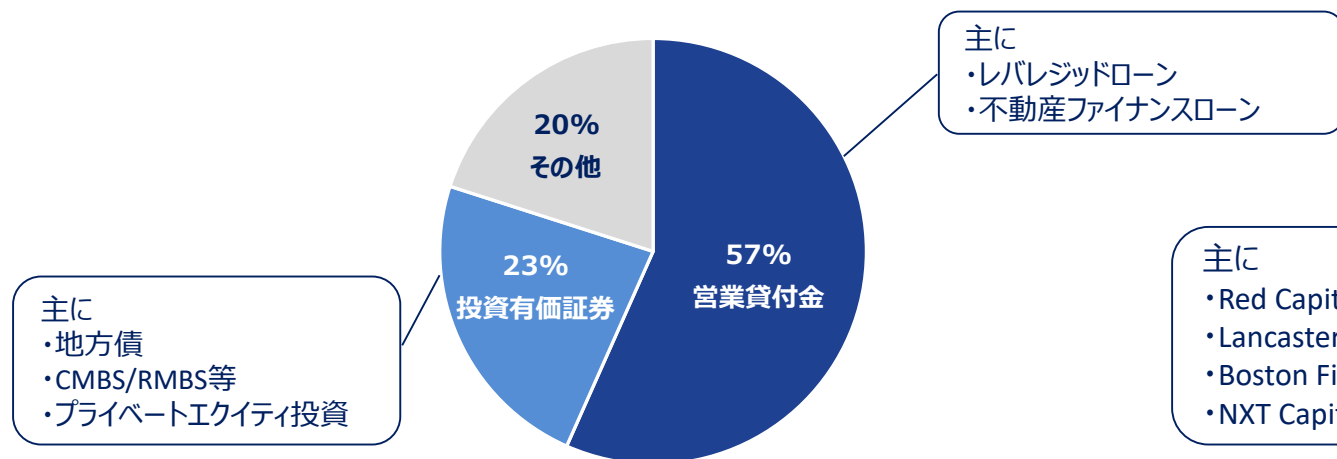
AUMの推移



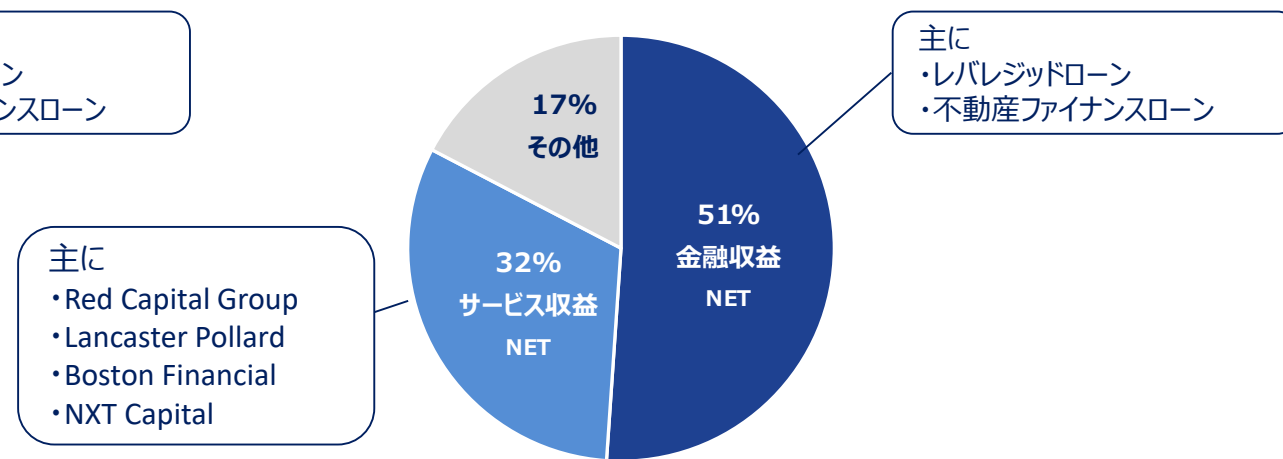
\*OREC:2019年にRed Capital Group, Lancaster Pollard, 2020年にHunt Real Estateを統合

## セグメント事業内容：米州における金融、投資、アセットマネジメント

セグメント資産（20.3期末）



セグメント収益 NET\*（20.3期）



\*セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）

主な買収企業	主な事業内容	買収時期	持分比率
Hunt Real Estate Capital, LLC*	ローン組成、サービシング	2019/12	100%
NXT Capital Group, LLC	ローン組成、資産運用	2018/8	100%
Lancaster Pollard Holdings, LLC*	ローン組成、サービシング	2017/9	100%
RB Capital S.A	不動産証券化、資産運用、不動産開発・投資	2016/12	67%
Boston Financial Investment Management, LP	ファンド組成・運用	2016/7	100%
RED Capital Group, LLC*	ローン組成、サービシング	2010/5	100%

\*2019年にRed Capital Group, Lancaster Pollard, 2020年にHunt Real EstateをORECIに統合

# セグメント別実績 (9) ORIX Europe



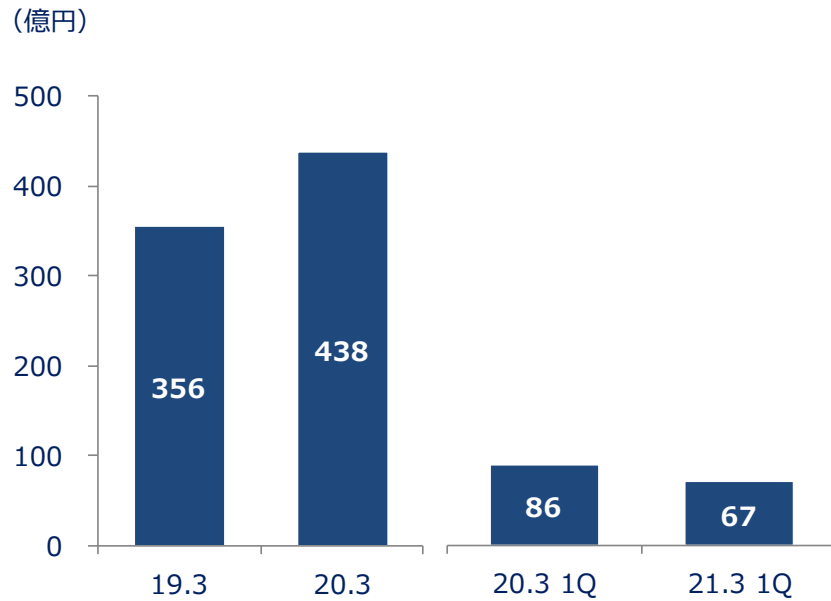
**セグメント利益 : 67億円** 前年同期比 ▲18億円 (▲21%)

✓ 前期末に市場の下落に伴うAUMの減少の影響を受け、減益

**セグメント資産 : 3,267億円** 前期末比 +89億円 (+3%)

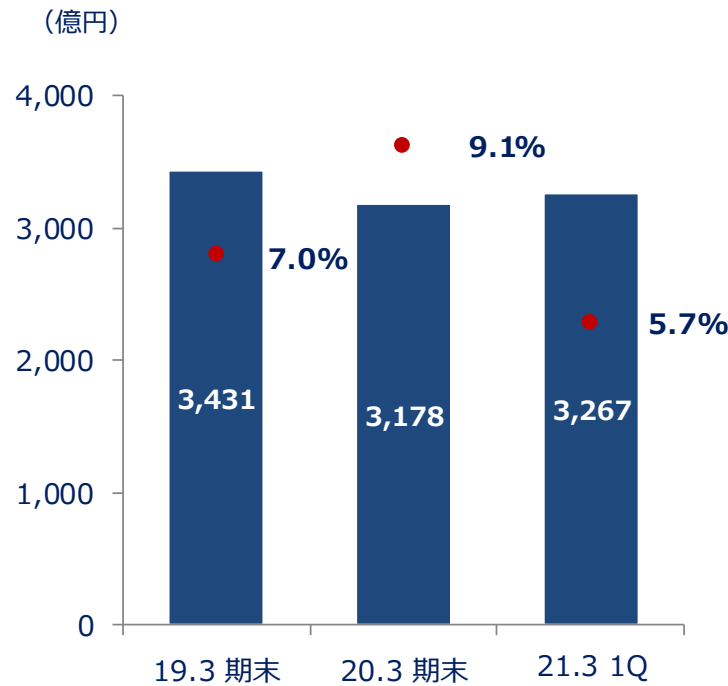
✓ 市場の回復に伴い、AUMは緩やかに増加  
 ✓ 為替影響+41億円を除くと、前期末比+48億円

セグメント利益



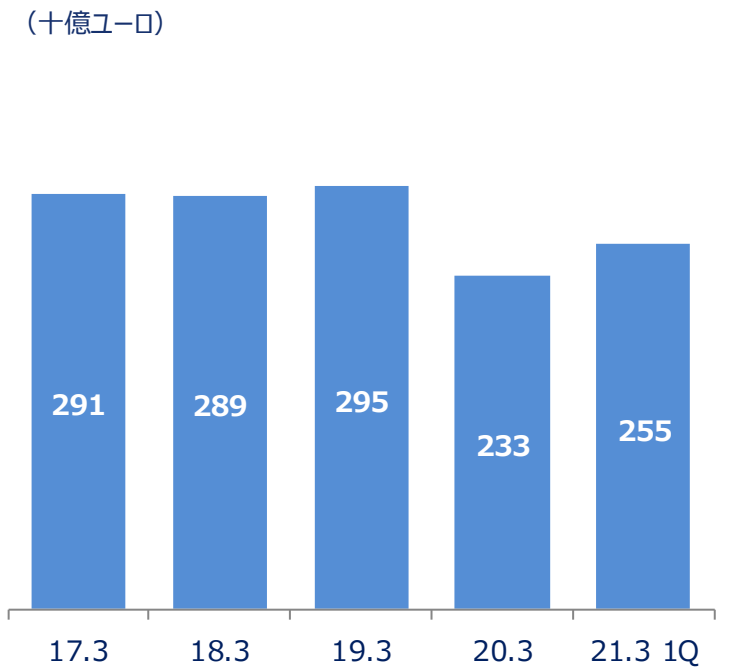
■ ORIX Europe

セグメント資産・ROA



■ ORIX Europe ● セグメントROA (年換算・税引後)

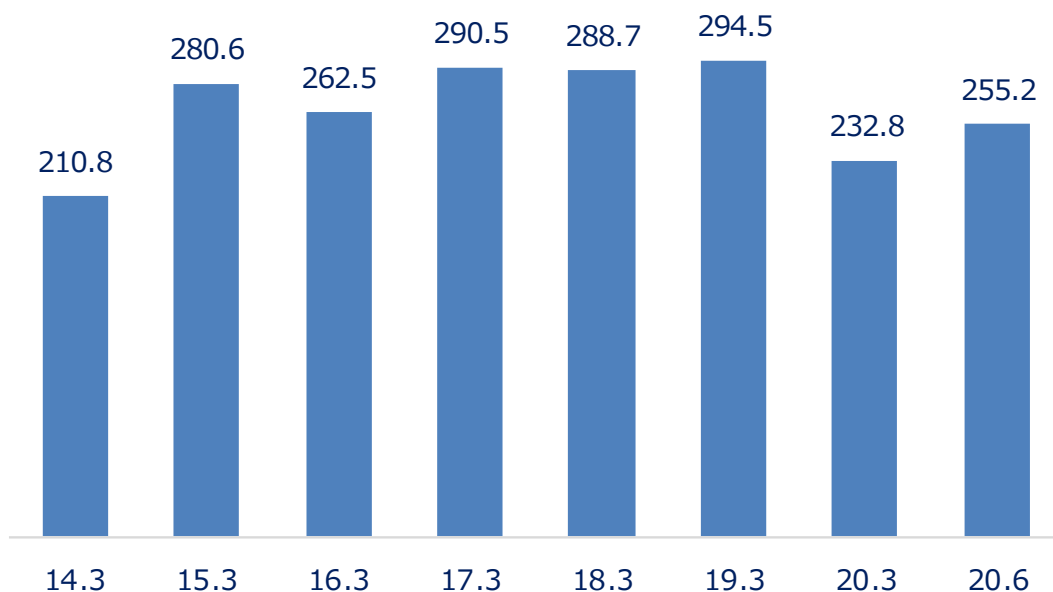
AUMの推移



セグメント事業内容：株式・債券のアセットマネジメント

過去のAUM推移\*

(十億ユーロ)



\*オリックスが、ロベコの買収を完了したのは、2013年7月

主な資産運用会社の概要

	本拠地	特徴	設立 (取得)
Robeco	ロッテルダム	株式・債券運用、 サステナビリティ投資の 資産運用会社	1929年 (2013年)
Boston Partners	ボストン	バリュー株投資ブティック	1995年 (2013年)
Harbor Capital Advisors	シカゴ	運用会社選定を採用 する投資信託会社*	1983年 (2013年)
Transtrend	ロッテルダム	先物投資顧問会社 (CTA**)	1991年 (2013年)

\* 株式・債券のミューチュアルファンドを組成し、ファンドごとに最適な運用会社（ファンド・マネージャー）を選定すること

\*\*コモディティ・トレーディング・アドバイザー。ヘッジファンドなど、商品先物のみではなく、通貨、株価指数先物など広範な金融商品に分散投資して、顧客から預かった金融資産を運用する企業や運用者



# セグメント別実績 (10) アジア・豪州

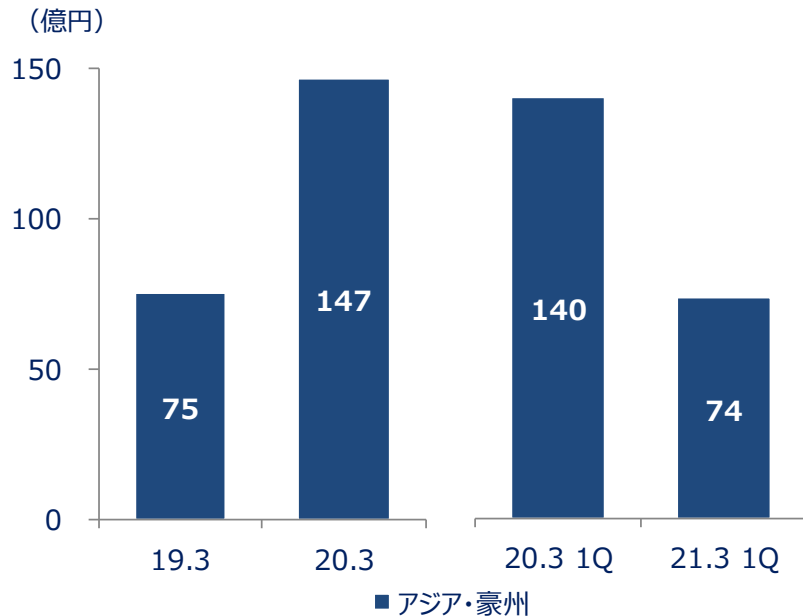
**セグメント利益：74億円** 前年同期比 ▲66億円 (▲47%)

- ✓ 出資先の売却益を計上したものの、前期にも大口売却益があり、減益
- ✓ アジアの現地法人で信用損失費用が増加

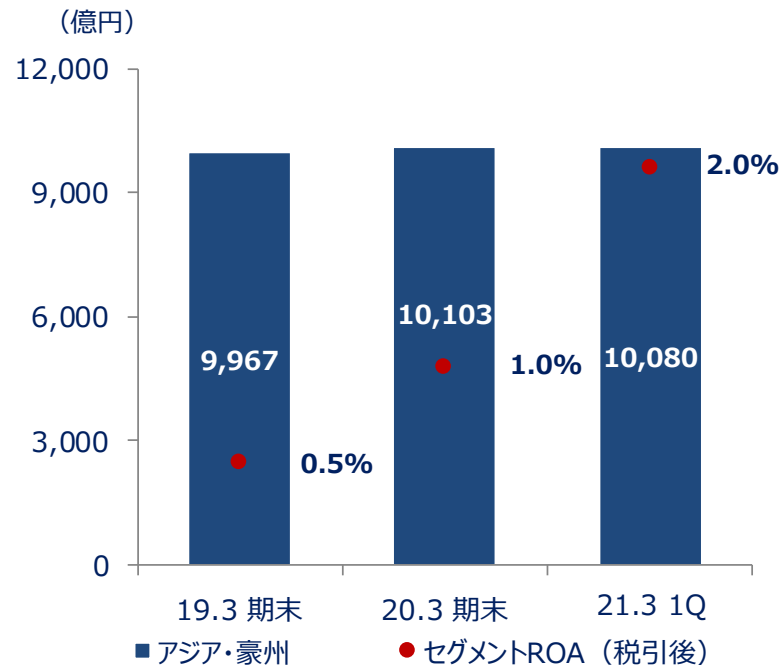
**セグメント資産：10,080億円** 前期末比 ▲23億円 (横ばい)

- ✓ 前期末比横ばい
- ✓ 為替影響+223億円を除くと、前期末比▲246億円

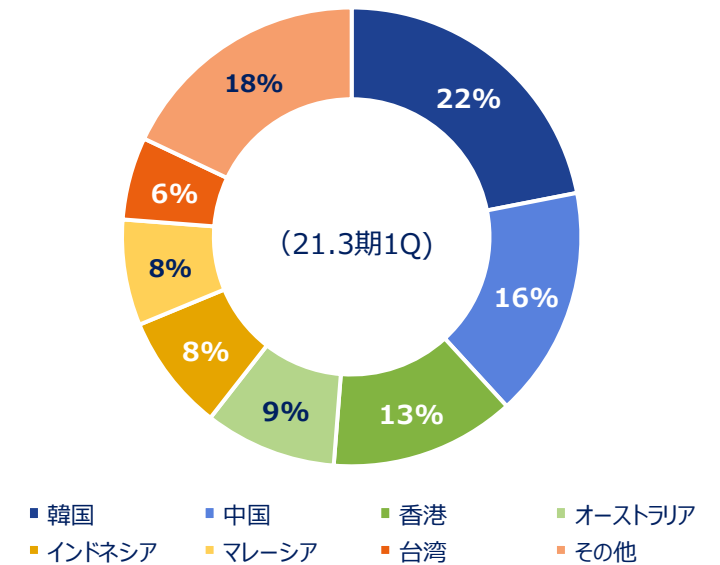
セグメント利益



セグメント資産・ROA

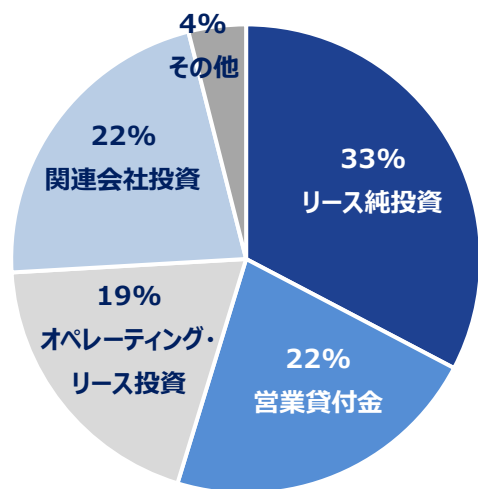


セグメント資産/地域別

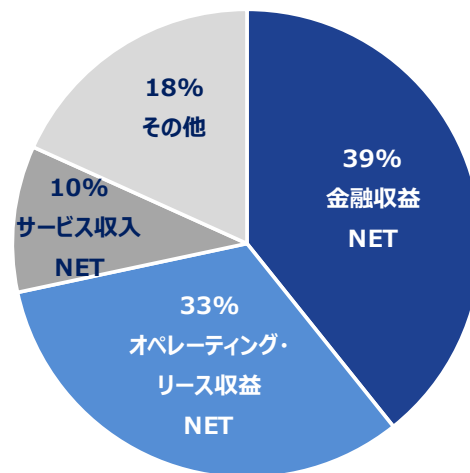


## セグメント事業内容：アジア・豪州における金融、投資

セグメント資産（20.3期末）



セグメント収益 NET\*（20.3期）



\*セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）

主な現地法人（アジア・豪州）

企業名	地域	事業内容	設立
ORIX Asia Limited	香港	リース、自動車リース、融資、銀行	1971/9
ORIX Leasing Malaysia Berhad	マレーシア	リース、融資	1973/9
PT. ORIX Indonesia Finance	インドネシア	リース、自動車リース	1975/4
ORIX Australia Corporation Limited	オーストラリア	自動車リース、トラックレンタル	1986/7
ORIX Auto Infrastructure Services Limited	インド	自動車リース、レンタカー、リース、商用車担保ローン、不動産担保ローン	1995/3
ORIX Capital Korea Corporation	韓国	自動車リース、リース、融資	2004/2
ORIX China Corporation	中国	リース、レンタル	2005/8

# 補足資料

✓ **世界も日本も、上半期中にコロナの問題が収束するとは考えにくい**

第3四半期末までに緩やかに正常化した場合、純利益は 1,800億円～2,000億円前後と試算

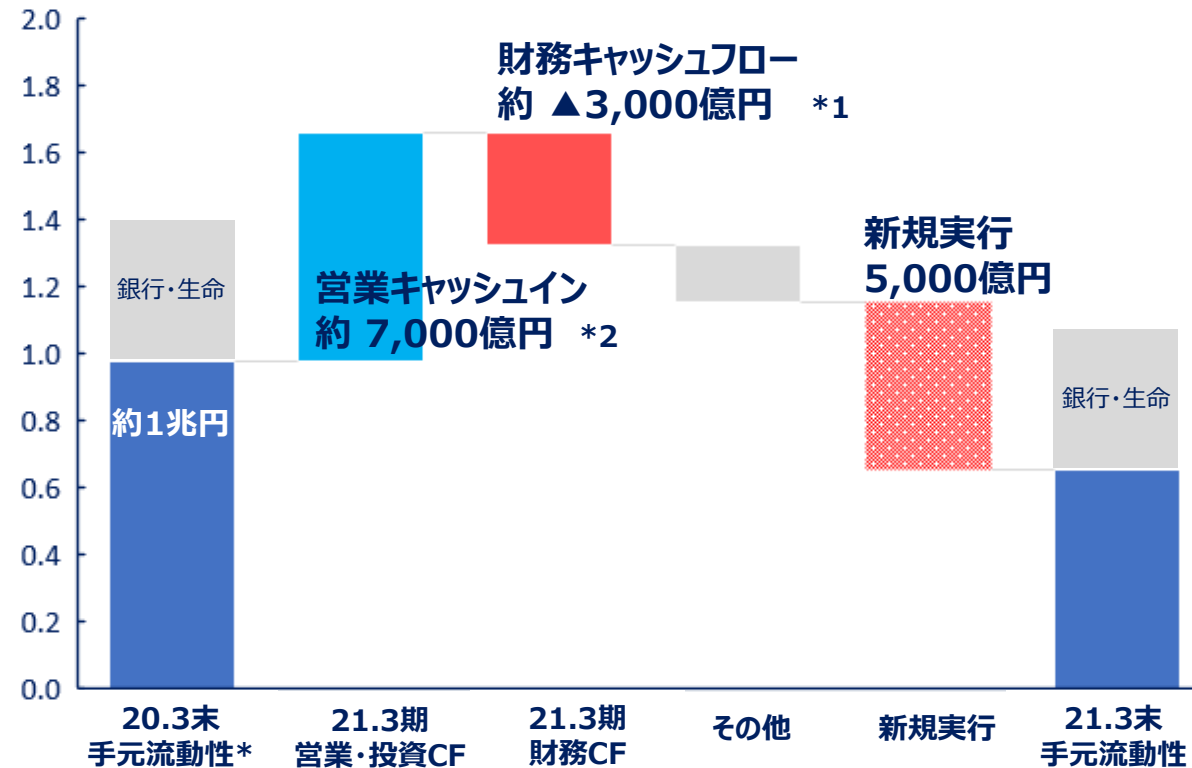
今期末まで問題が継続すると仮定した場合、純利益は 800億円～1,200億円前後と試算

✓ **不確定要素が多く、現時点で今期業績見通しの公表は困難**

引き続き精査を行い、見通しの確度が高まった段階で公表を行う

- ✓ 現在の資金調達環境に懸念はない。ストレス前提において、更に 5,000億円の新規投融資を見込んでも期末の手元流動性は 6,000億円以上のプラス
- ✓ 流動性確保を基本とし、新規投融資のスピードを適切にコントロール

(単位：兆円)



- \* 1 財務キャッシュフロー ストレス前提
  - ① 資本市場調達：期日到来分につき、ロールができない
  - ② 銀行借入：期日到来分につき、50%しかロールができない
- \* 2 営業キャッシュイン ストレス前提
  - ① デット系資産は1兆円の期日到来に対し、回収遅延が30%発生
  - ② 大口の資産売却を見込まず

\* 手元流動性：現金、現金等価物（生命、銀行を含む）+コミットメント未使用額

## 基本的な考え方

### 成長を続ける

既存投資はバリューアップしながら、適切なタイミングで利益実現。ROE 目標（11%以上）は中長期的に維持

### ビジネスチャンスは逃さない

格下げ回避のためにビジネスチャンスを逃すことはしない。格付維持は最大限努力

### 株主還元強化

投資は優先するものの不必要な資本は維持しない。余剰資本は還元

2020年5月公表

- ✓ コロナ後、マーケットは反転すると考えられる。更なる成長機会を捉えることを可能にするチャンス
- ✓ 純利益 4,000億円、5,000億円を目指す姿勢は変えないものの、時間軸と工程の見直しは必要
- ✓ 新しい中期計画の検討は、コロナ収束後に行う

- ✓ 金融危機以降、財務健全化を推進。当時と比べて各指標は大幅に改善

主要財務指標の推移	2008年3月期	2020年3月期**
①財務レバレッジ D/Eレシオ (預金除く)	4.6倍	<b>1.5倍</b>
②短期調達への依存度 短期借入 + CP	1.3兆円	<b>0.3兆円</b>
③手元流動性 現金* + 長期コミットライン未使用額	0.4兆円	<b>1.3兆円</b>
④株主資本比率 株主資本 ÷ 総資産	14.1%	<b>22.9%</b>

\*銀行・生命保険の現金を含む

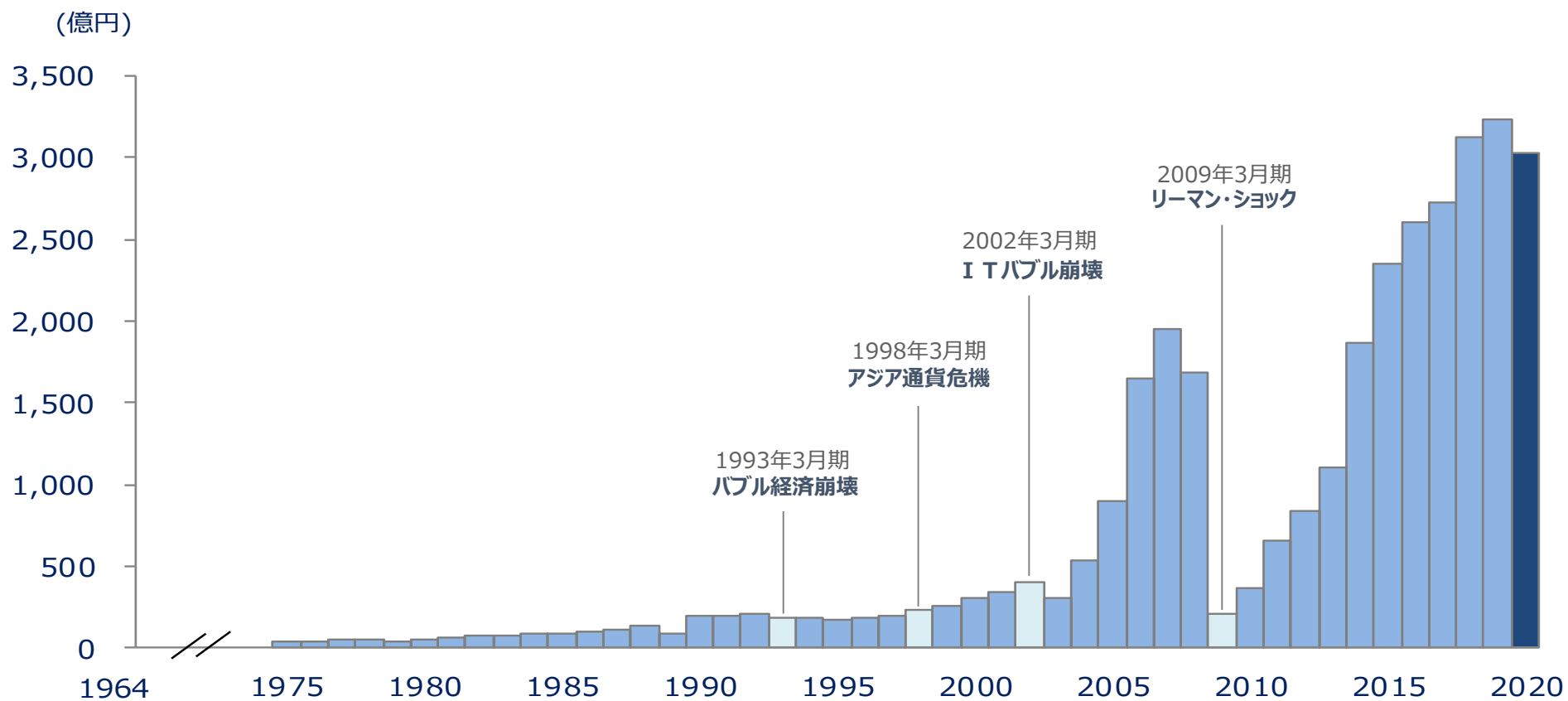
\*\*2020年3月末時点のデータに更新

(ご参考) 2020年6月末時点の格付

S&P : A - (ネガティブ)    Moody's : A3 (ネガティブ)    Fitch : A - (ネガティブ)    R&I : AA - (安定的)

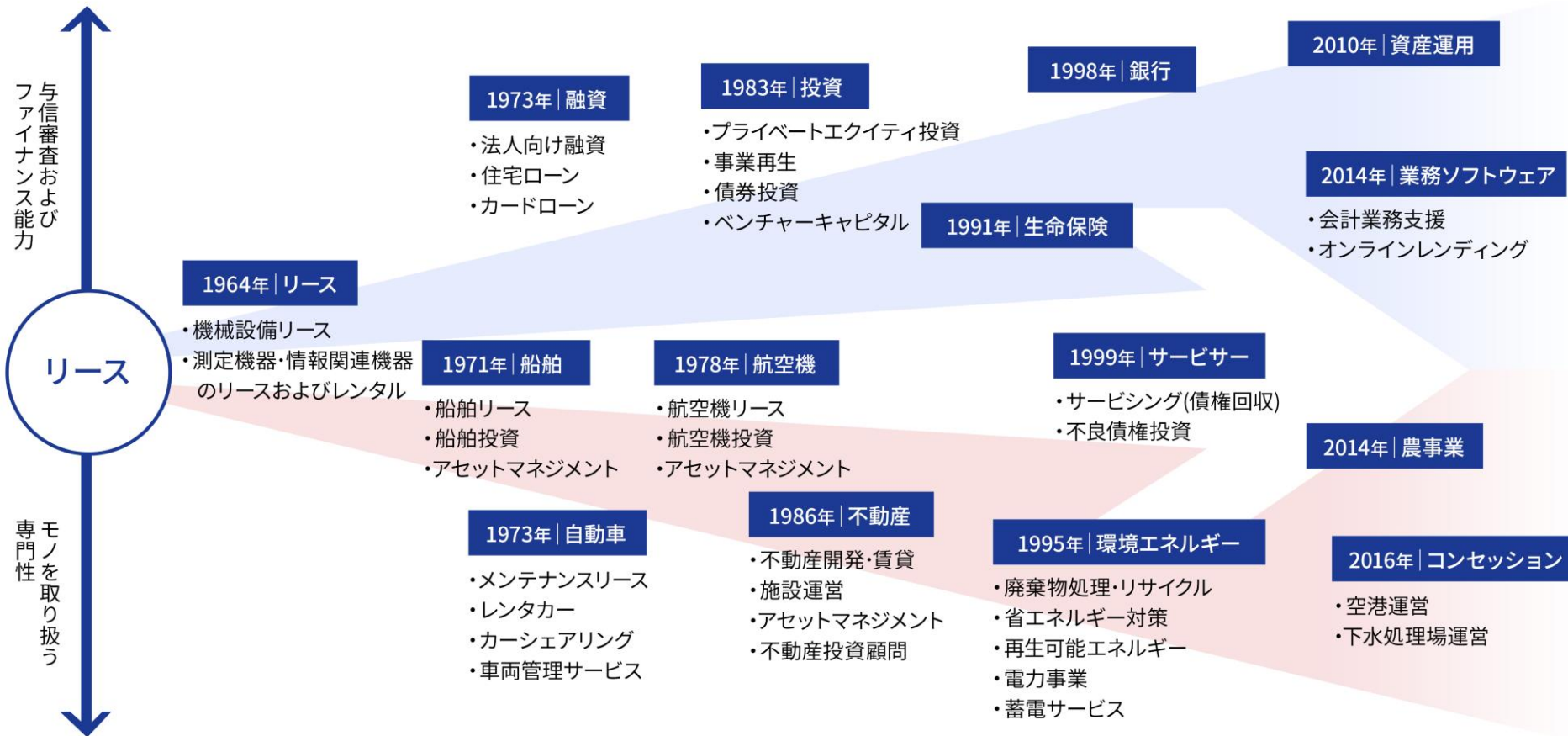
- ✓ 設立初年度を除き、55年間毎期黒字を計上

当社株主に帰属する当期純利益





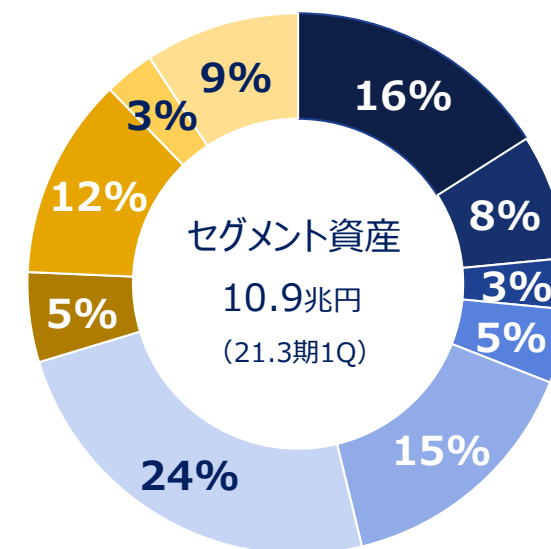
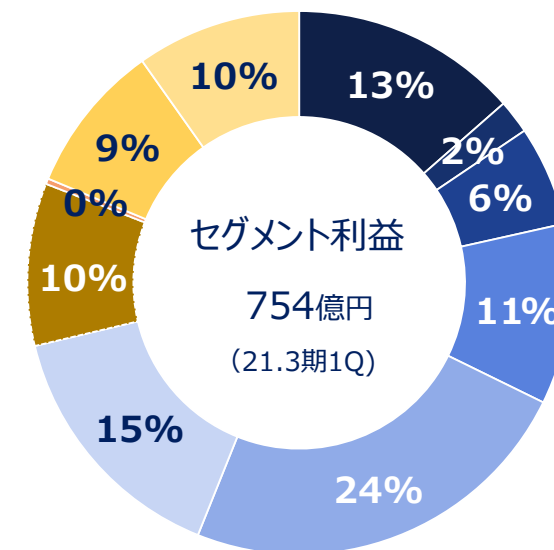
✓ 「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣へ、そのまた隣へと事業展開



# オリックスについて セグメント別の利益・資産の構成

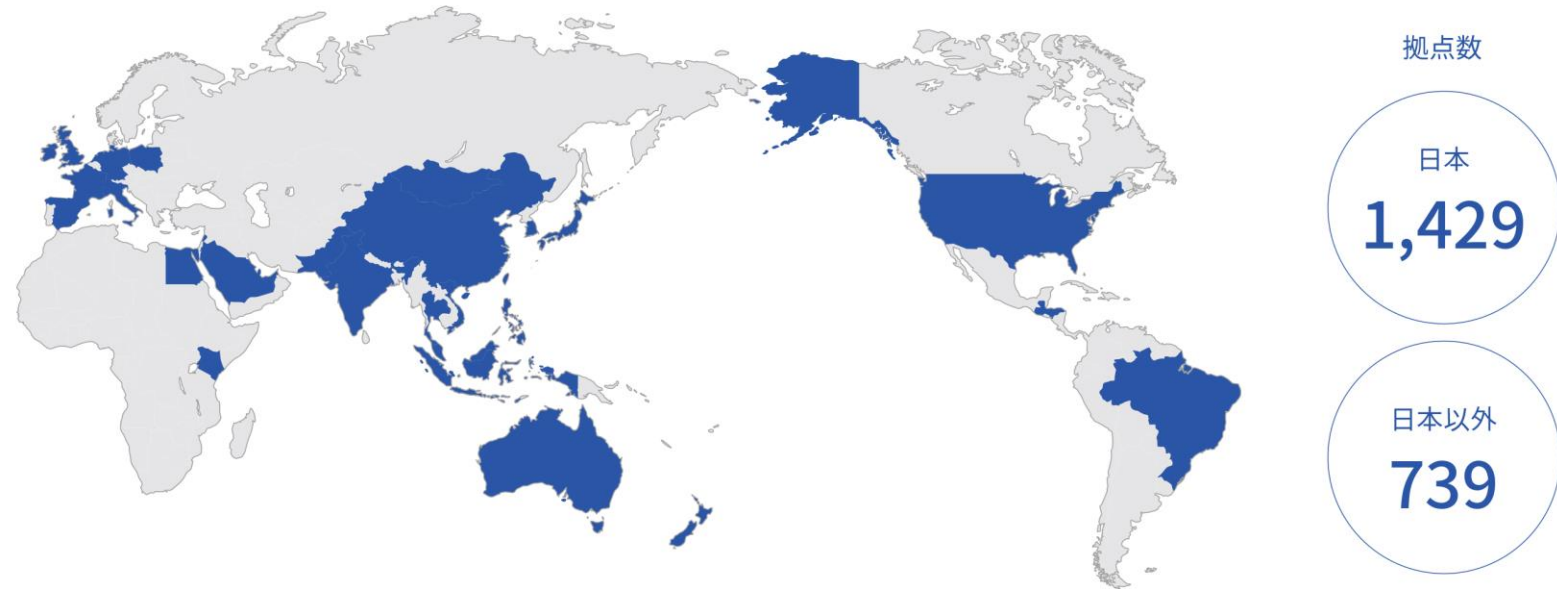
✓ それぞれの事業が独自の強みを最大限に発揮し、相乗効果を生み出している

法人営業・メンテナンスリース	金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・IT関連機器などのリースおよびレンタル、弥生
不動産	不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント
事業投資・コンセッション	企業投資、コンセッション
環境エネルギー	国内外再生可能エネルギー、電力小売、省エネルギーサービス、ソーラーパネル・蓄電池販売、廃棄物処理
保険	生命保険
銀行・クレジット	銀行、カードローン
輸送機器	航空機のリース・管理、船舶関連投融資
ORIX USA	米州における金融、投資、アセットマネジメント
ORIX Europe	株式・債券のアセットマネジメント
アジア・豪州	アジア・豪州における金融、投資



# オリックスについて グローバルネットワーク

✓ 国内で培ったノウハウを元にネットワークを拡大、世界37ヶ国・地域で事業を展開

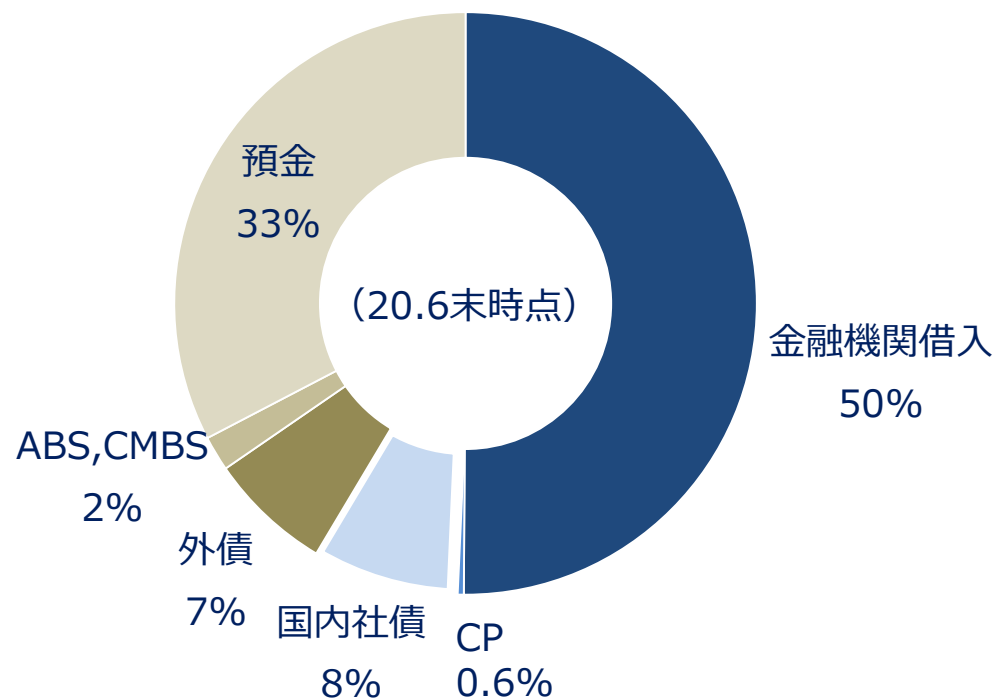


(2020年3月末日時点)

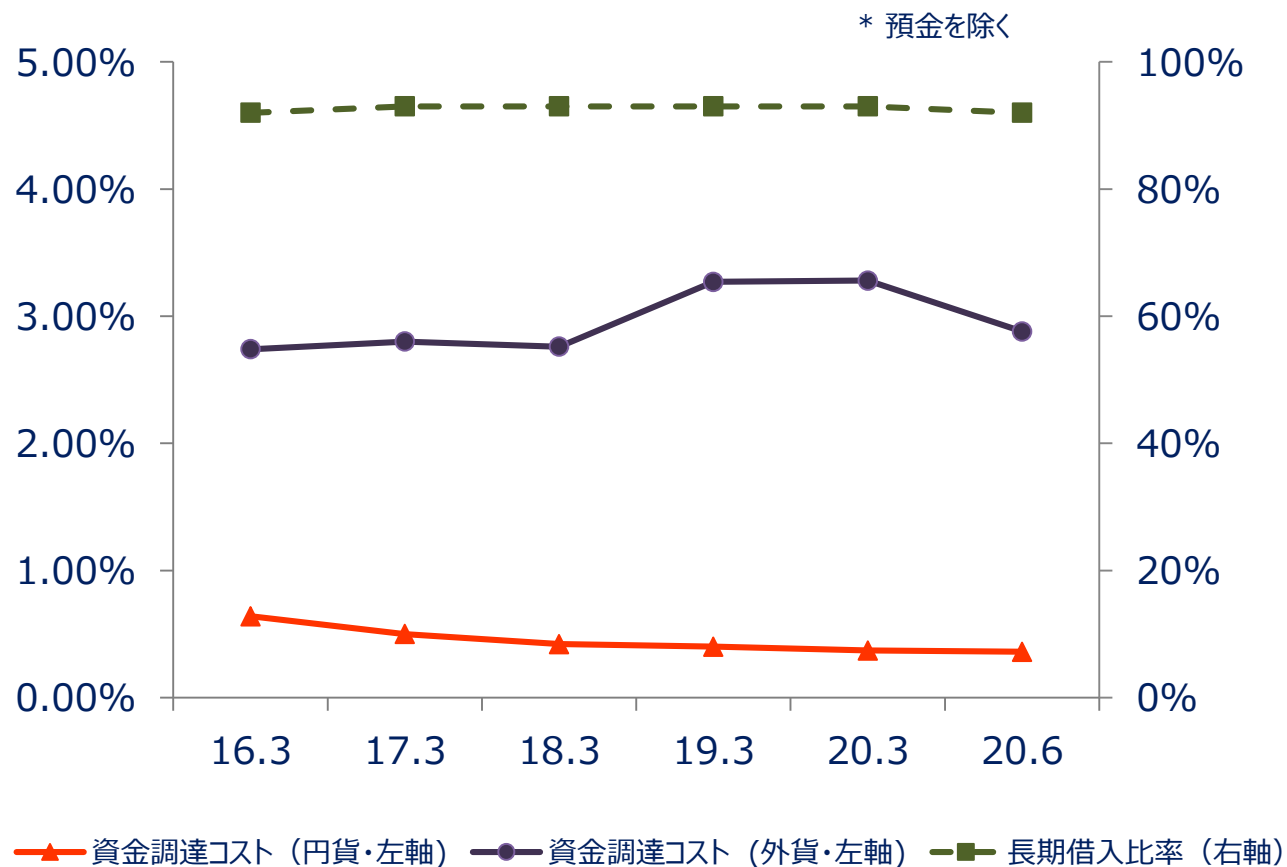
1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
グローバルネットワークの国数				
7カ国	12カ国	18カ国	26カ国	37カ国
アジアでのリースを中心としたグローバルネットワークの拡大		グローバルネットワークの拡大継続 航空機関連やエクイティ投資への事業が多角化		ロベコ買収や、環境エネルギー事業の展開を通じてさらに事業分野が拡大

✓ 多様化された資金調達。高い長期借入比率を維持しながらコストをコントロール

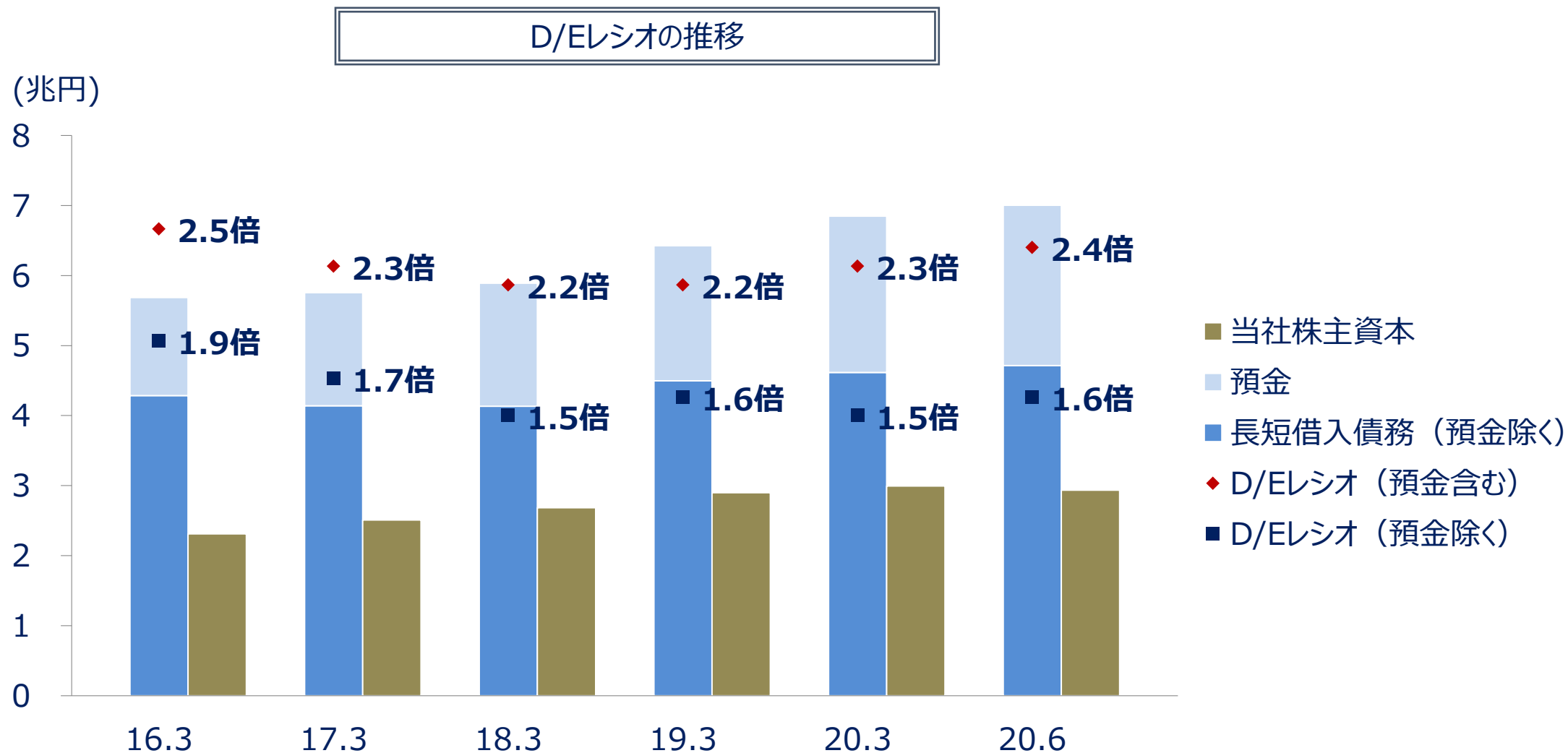
資金調達の内訳



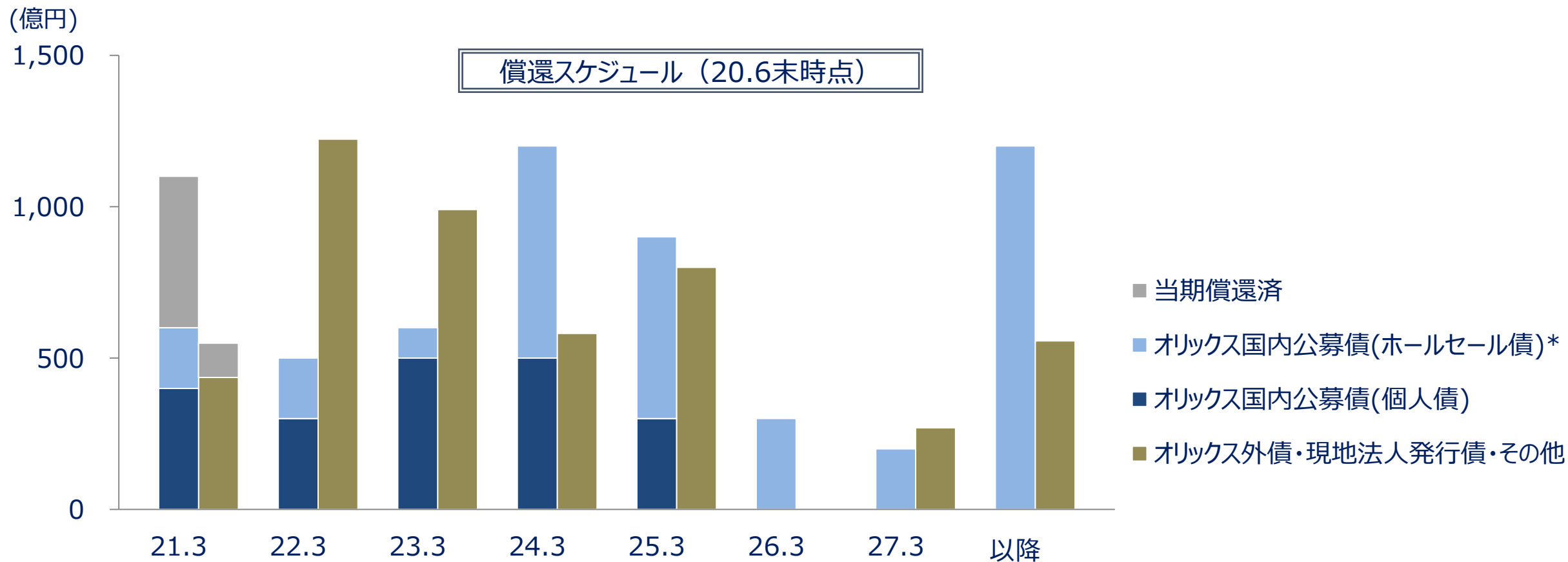
コスト・長期借入比率\*の推移



✓ D/Eレシオは低位で推移



✓ 償還期日の分散を通じ、各期償還額の平準化を実現



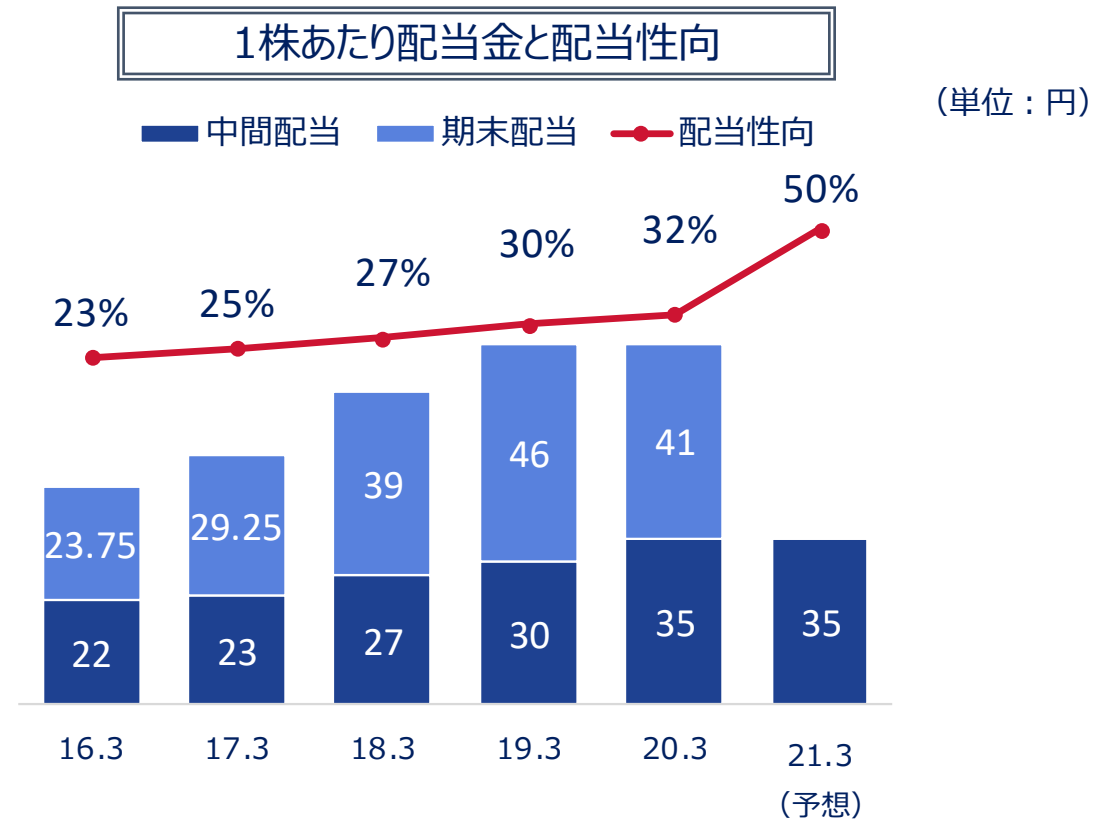
\*オリックス国内公募債（ホールセール債）のうち1,000億円は、2020年3月期に発行した公募ハイブリッド社債（劣後特約付社債、2080年3月期満期）であり、発行日から5年経過以降に600億円、10年経過以降に400億円の期限前償還が可能です

# ポートフォリオの3分類

分類	主なリスク	ファイナンス	事業	投資
	資本負荷	クレジットリスク	低	運営リスク、事業リスク
			中～高	高

セグメント	国内	海外	環境・インフラ	金融サービス	メンテナンスサービス	その他	債権投資	現物投資	エクイティ投資
	法人営業・メンテナンスリース	リース 貸付金 フィービジネス				自動車 レンタル	弥生	サービサー	
不動産			施設運営 大京	アセットマネジメント				不動産投資	
事業投資・コンセッション			コンセッション						PE投資
環境エネルギー			環境エネルギー						
保険				生命保険					
銀行・クレジット	銀行 カードローン、保証								
輸送機器								航空機 船舶	
ORIX USA		リース 貸付金		アセットマネジメント			債券投資		PE投資
ORIX Europe				アセットマネジメント					
アジア・豪州		リース 貸付金							PE投資

- ✓ 20.3期 通期配当額 76円（配当性向32%）、21.3期 中間配当予想 35円
- ✓ 21.3期に限り、配当性向を 50%まで引き上げ
- ✓ 自社株買いの検討は、コロナ収束後に行う



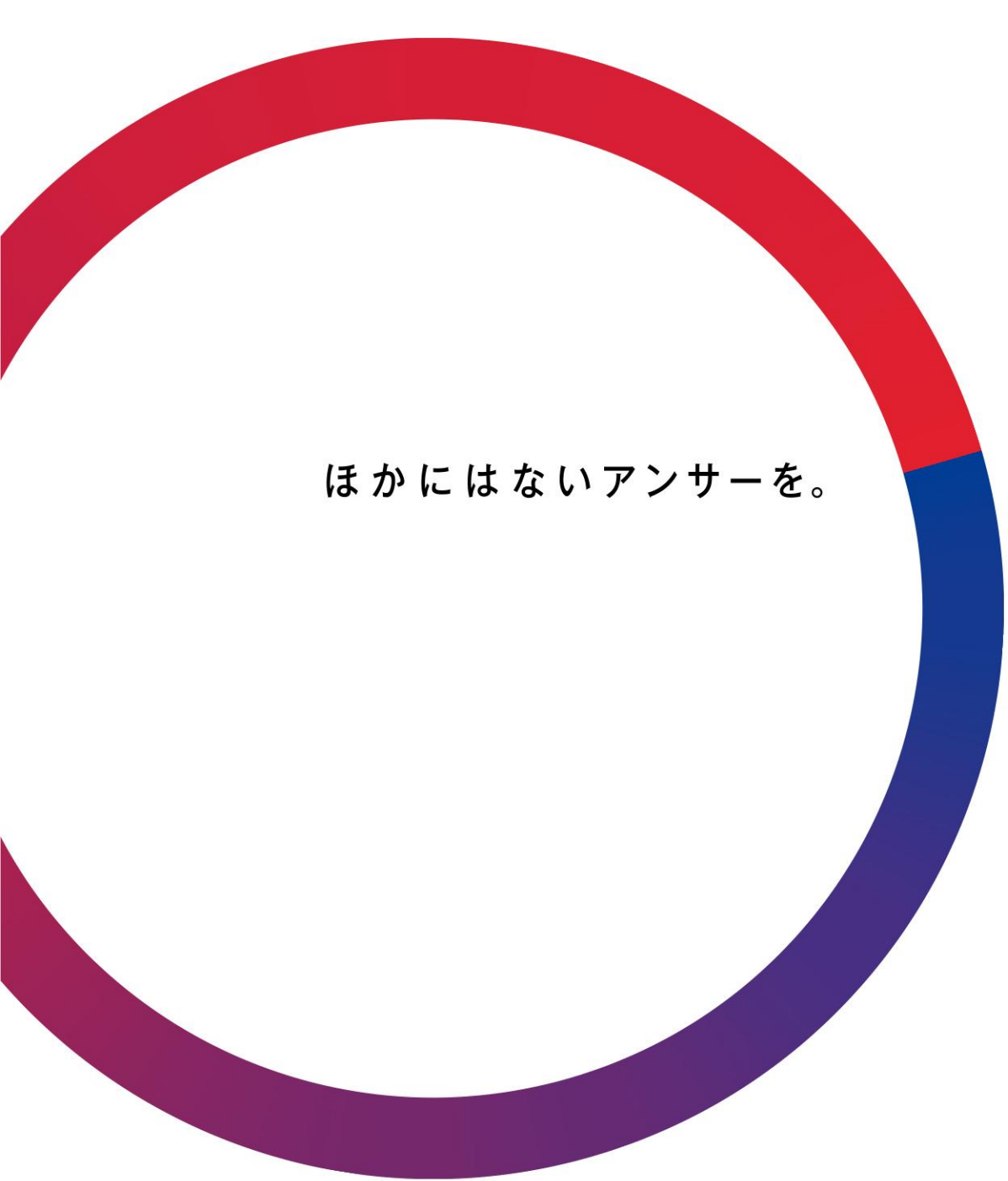


本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみにより全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因（Risk Factors）」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。



ほかにはないアンサーを。

オリックスに関する追加情報については弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

投資家情報

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>

IR資料室

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/library/>

オリックス株式会社 経営計画部

〒105-6135 東京都港区浜松町2-4-1

TEL : 03-3435-3121

FAX : 03-3435-3154